

明治大学博物館

年報

2019年度



明治大学博物館

2019年度の展示活動



特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」



新収蔵・収蔵資料展 2019



素晴らしき古墳との出会いー大塚初重スケッチ絵画展



今、甦る！琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳展



植村直己さんがイノチかけてつかんだコトバ



神田発信！大学スポーツの軌跡



明治大学博物館

年 報

2019年度



明治大学博物館

目次

□ 絵	1
I 展示活動	5
1 特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」(5)	
2 その他の展覧会／コラム展示 (7)	
II 教育普及活動	9
1 講座 (9)	
2 博物館実習 (10)	
3 在学生対象事業 (10)	
4 アウトリーチ活動 (11)	
5 社会連携・大学間連携 (11)	
6 情報発信 (12)	
7 ボランティア受け入れ (12)	
8 明治大学博物館友の会 (13)	
III 研究活動	14
1 調査・研究活動 (14)	
2 研究業績 (14)	
3 刊行物 (15)	
IV 収蔵資料	15
V 統計・一覧・資料	22
1 入館データ (22)	
2 組織・構成 (25)	
3 予算・決算 (27)	
4 施設概要・見取り図 (29)	
5 規程 (31)	
6 2019年度教育・研究に関する長期・中期計画 (37)	
7 2019年度単年度計画重点項目一覧 (39)	
8 明治大学博物館のあゆみ (40)	

表紙写真：

変身立体「波と草原」(杉原厚吉・設計) 特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」出展作品

I 展示活動

1 特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」

(1) 実施形態

- 主 催 明治大学
 企 画 明治大学先端数理科学インスティテュート (MIMS) 私立大学研究ブランディング事業「数理解科学する明治大学」錯視学研究チーム 明治大学博物館
 会 期 7月13日(土)～9月8日(日)50日間(8月10～16日、18日休館)
 会 場 アカデミーコモンB1博物館特別展示室 入場無料 入場者数 22,003名
 担 当 者 杉原厚吉(MIMS研究特別教授) 山口智彦(MIMS特任教授・私立大学研究ブランディング事業「数理解科学する明治大学」代表) 外山 徹(博物館学芸員)

(2) 趣旨

2016年度に採択された私立大学研究ブランディング事業「数理解科学する明治大学」は、本学の対外的なブランド・イメージ構築に向けての全学的な取り組みとして推進すべき課題である。その研究成果を学内共同利用機関である博物館の特別展示室から社会に向けて発信する。年間10万人が訪れる博物館における成果の公開は効果的な社会還元の方策と言える。

ブランディング事業の参画組織である先端数理科学インスティテュート(MIMS)は、社会及び自然にかかわる現象の数理解析を課題とする国際的研究拠点として、本学の研究・知財戦略機構に設置された。ここでは、実社会とのかかわりを重視した数理解科学の発展・普及を図ることを目的とし、生命現象、地球環境、災害、医学、交通、金融など、様々な局面で発生する複雑現象を数理モデリングで表現し、シミュレーションで再現・解明する現象数理解科学を展開している。

この特別展では、MIMSを構成する複数のプロジェクトの中でも、国内外のマスコミ等によって取り上げられるなど多くの社会的関心を集めていること、小学生から高齢者まで幅広い世代にわたって興味を喚起できることから「錯視現象」の解明に関わる研究成果を取り上げる。展示では、ただ不思議な体験を提供するだけでなく、錯視という身近で不思議な現象が具体的な数理モデルとして提示できること、それに基付いたシミュレーションによって新たな錯視の発見につながっていることを紹介する。この、MIMSが取り組む現象数理解科学の具体的な様相と研究プロセスの例示により、大学における研究活動が社会的意義を有する営みとしてあることを広く周知し、また、研究に取り組み深めることの魅力を在学生や受験生世代をはじめとする若年層にアピールしたい。

(3) 展示構成

① “ありえない”はずの立体は実在した

はじめに錯視研究の契機となったエピソードを紹介した。きっかけはロボットによる立体の認識の研究だった。“だまし絵”として描かれた実在しないはずの立体の絵をロボットがどう認識するか試してみたところ、何とロボットはそれを実在する立体として認識した。そして、ありえないと思われた立体は数理解析によって実際に制作が可能なが判明したのである。すなわち、実在する立体が、人間の目の奥行を知覚する錯視によって、ありえない立体として見えるわけである。

② 錯視とはどういうことか？

網膜に映る2次元の画像を3次元立体として知覚するには脳による視覚情報の補充を必要とする。そこに攪乱が起きている状態が錯視であり、錯視は本来的に脳の知覚機能に由来するのである。ここでは、錯視の基本的な事例として、遠近法的性質の錯視について、同じ長さの線に長短が感じられる、同じ形の2つの図像が異なった形・大きさに見える、という事例を挙げて説明した。

③ 錯視を研究する社会的意義

われわれの生活空間の中には視覚認識に錯誤を生ずるさまざまな危険が存在する。つまり、錯視のしくみを理解することは適切な生活環境の整備に資するのである。例えば、状況の誤認が原因となって起こる交通事故の防止、道路傾斜の誤認を原因とする交通渋滞の回避、誇大広告の規制などである。一方、錯視を利用することで効果的な視覚情報の伝達が実現する。標識類の視認性の向上や錯視を利用した新しいエンターテインメン

ト手段の提供などが可能である。

④錯視のしくみを解き明かす

錯視現象は計算という手段によって再現・説明できる。立体を描いた 2 次元の絵に相当する実在の立体は計算上無限に存在する。直角のみを用いた立体の図に相当する直角以外で構成された立体を組み合わせると錯視が起きる。立体の設計は、立体を描いた 2 次元の絵 (D) を実際に人の目に見える図像に見立て、手前に絵を見る視点位置 (O) を固定する。O から絵 (D) に描かれた立体の“頂点”へ伸ばした半直線の先には実際の 3 次元立体 (P) の頂点を想定できる。O から立体 (P) の頂点までの距離を変数に取る。頂点ごとに変数を割り当て、頂点の 3 次元座標を表現することにより立体の数理モデルができあがる。

⑤立体のイリュージョン

これまでインスティテュートが開発してきた立体作品を一堂で紹介した。
 〈だまし絵立体〉立体としては作れないように見えるだまし絵を実際に立体化したもの
 〈不可能モーション立体〉ボールを置いたり、棒を差し込むとあり得ない動きに見える
 〈変身立体〉直接見た姿と、それを鏡に映した姿がまったく違って見える立体
 〈透身立体〉鏡に映すと一部が消えたように見える立体
 〈トポロジー攪乱立体〉鏡に映すと複数の立体のつながり方が変わって見える立体
 〈鏡映合成変身立体〉意味不明の立体を鏡の上に置くと形が見えてくる
 〈高さ反転立体〉鏡に映すと高低が反転して見える立体
 〈3 方向多義立体〉三つの方向から見たとき、それぞれ違った形に見える立体
 〈軟体立体〉向きを変えても元の形のままだのように見える立体など

(4) 展示資料の概要

出展総数 77 点 (うち先端数理科学インスティテュートから出展の錯視立体作品 53 点、同錯覚模型 2 点、博物館が制作した錯視立体作品 8 点、商品部門館蔵品 13 点、その他 1 点)

(5) 関連イベント

①開催記念講演会 (リバティアカデミー・オープン講座)

タイトル 見えているのに見えていない! 立体錯視の最前線
 講師 杉原厚吉 明治大学研究・知財戦略機構研究特別教授
 日時 7 月 27 日 (土) 14:00~15:30
 会場 明治大学グローバルフロント 1F グローバルホール 参加者 124 名

②ギャラリートーク

講師 杉原厚吉 明治大学研究・知財戦略機構研究特別教授
 日時 ① 7 月 17 日 (水) ② 8 月 23 日 (金) ③ 9 月 5 日 (木)
 何れも 14:00~14:30 参加者数 ①106 名 ②194 名 ③151 名

(6) 頒布物

①展示図録

監修者: 杉原厚吉 執筆者: 杉原厚吉 外山 徹
 タイトル: 『見えているのに見えていない! 立体錯視の最前線』
 刊行日: 2019 年 7 月 13 日 ページ数: 64 ページ 部数: 1000 部 頒価: ¥1,000

②ミュージアムグッズの製作

- ・トートバッグ (だまし絵立体コレクション) 200 個 頒価: ¥700
- ・クリアファイル (めいじろうアナモルフォーズ+奥行き錯視) 800 個 頒価: ¥100
- ・クリアうちわ (めいじろう錯覚渦巻き) 800 個 頒価: ¥200

(7) 記録動画の制作

杉原厚吉研究特別教授による解説及び展示風景の映像、先端数理科学インスティテュート紹介のイメージ画像などで構成。時間: 14 分 11 秒 ホームページ「明治大学博物館アーカイブ」にて 2020 年 1 月 11 日より公開

(8) 成果

- ・2万人超の入場者に加え、「朝日」「毎日」「産経」の主要紙及び共同通信の配信によって地方紙にも記事が掲載され、本学の全学的取り組みである「私立大学研究ブランディング事業 数理科学する明治大学」を社会に周知、その成果を還元することができた。展示図録の窓口頒布、記録動画の公開によってさらなる成果拡張が見込まれる。
- ・これまでも各地で展示の実績がある杉原研究特別教授の錯視立体作品だが、研究成果の公開という位置付けでの開催はなかなか実現していなかった。大学が開催する展覧会として、錯視現象がなぜ発生するのかという基礎的な理論、研究成果がどのような社会的要請に応え得るのか、錯視立体の設計にかかわる数式の立て方や具体的な数理モデルを提示することによって学術的な側面をアピールすることができた。
- ・第6回 Best Illusion of The Year Contest (2010) 優勝の「なんでも吸引4方向すべり台」をはじめ、8点の作品を大学予算で制作した。内、5点は恒久的な素材を使用しており、作品のアーカイブとすることと、今後も展示や学内外への貸出など活用を図ることができるようになった。

2 その他の展覧会／コラム展示

(1) 主催・共催展覧会

①新収蔵・収蔵資料展2019

会 期 3月23日～4月21日 30日間
入場者数 2,605名

2018年度に博物館が新たに収集・受贈した資料および関連する収蔵資料を紹介。刑事部門では、明治期にもなお継承されている捕縄術の免許皆伝書「新新治源流縄」、江戸城の諸門・見附を描いた「江戸方角之絵図」など。商品部門では、楽山窯、出西窯といった山陰地方の焼き物のマーケティング研究の成果収集物と受贈を受けた八城焼の茶壺(江戸期・熊本県)など。考古部門では、長期貸出から戻ってきた千葉県江原台遺跡の山形土偶(縄文時代後期)などを展示した。

②素晴らしき古墳との出会い—大塚初重スケッチ絵画展

会 期 5月11日～6月16日 37日間
入場者数 4,603名 協 力 大塚初重名誉教授
考古学者・大塚初重氏が1986年から四半世紀にわたって描きつづけた665点にのぼる全国各地の古墳のスケッチの中から、38点を紹介した。作品の変遷、東日本・西日本の古墳、海外の遺跡、風景画と静物画、発掘現場調査、生涯教育のあゆみの7コーナーで構成。研究者ならではの視点と、大塚氏の生涯教育の道のりをたどった。明治大学OBや関係者、生涯教育講座の受講生が多く訪れた。一般来館者からの反応もあり、実物資料とはまた異なった手法でアプローチをすることができた。

③今、甦る！琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳展

会 期 10月4日～27日 22日間(10/12,13の両日は台風のため臨時閉室)
入場者数 4,957名
共同主催 東近江市 明治大学博物館
明治大学文学部考古学研究室

東近江市教育委員会が主体となり、古墳時代前期に築かれた滋賀県雪野山古墳出土の国指定重要文化財

等約180点を一堂に展示した。有機物(漆・革製品)および金属製品の重要文化財の展示は当館では初。三角縁神獣鏡や武具の鞆(ゆき)など、畿内の未盗掘前期古墳の副葬品を関東で公開する貴重な機会となった。初日に東近江市長・土屋学長・滋賀県選出国会議員が参加して開幕式を行い、同日に福永伸哉大阪大学大学院教授による記念講演会を東近江市主催で開催した。また、会期中は東近江市職員が常駐し、展示解説を毎日実施した(のべ44回、787名参加)。あわせてリバティアカデミー講座や関連学会も開催され、研究者や一般に広く周知することができた。

(2) 学内団体・外部団体による展覧会

①植村直己さんがイノチかけてつかんだコトバ

会 期 11月7日～12月17日 41日間
入場者数 6,023名
主 催 豊岡市立植村直己冒険館
共 催 明治大学校友会
後 援 明治大学博物館 明治大学社会連携機構
植村直己が厳しい冒険でいつもくり返した言葉。たった一人で向かった世界の高峰、極寒の地・・・未知の場所で困難にあい、乗り越えてきた中で残した言葉は尊く、今もなお私たちに「生きる力」をあたえてくれる。その言葉にイラストレーターの黒田征太郎氏がイラストにより、新たな「イノチ」を吹き込んだ。

②神田発信！大学スポーツの軌跡

会 期 1月24日～3月1日 38日間
入場者数 2,695名
専修大学大学史資料室 明治大学史資料センター
中央大学広報室大学史資料課 日本大学企画広報部
共催
2020年はオリンピック・パラリンピックイヤーであり、神田の大学から初のオリンピック出場者を輩出して100年目にあたる。草創期に千代田区神田にキャンパスを構え、現在も校舎ないし施設が所在する専修・明治・中央・日本大学は、いずれも明治期から学生ス

ポーツの先導的な役割を担ってきたことで知られ、各種スポーツで精華を競い合ってきた。神田の大学における学生スポーツの歴史を改めて振り返り、その足跡と意義を検証した。

※新型コロナウイルス感染症予防のための臨時閉館により当初4月12日までの会期を短縮して終了した。

(3) コレクション展 ※10/12, 13 2/20, 21 臨時休館

①商品部門

ア 藍染め

期間 3月27日～7月29日 125日間

各地で生産されてきた藍染めの染織品を展示し、その特徴を紹介した。

イ 漆×紙・竹・金・陶・硝子

期間 7月30日～10月16日 69日間

漆器に関して、「木胎」以外を器胎とする漆器の展示。

ウ 立体錯視の最前線 ENCORE

期間 10月17日～11月12日 25日間

ホームカミング・デーの開催にあたり、好評の内に閉幕した特別展の出展作品の中から博物館が収蔵するものを再度展示した。

エ 現代デザインとしての桃山の茶陶

期間 11月13日～2020年2月2日 69日間

「桃山の茶陶」のデザインを取り入れた陶器製品の展示。現代商品に表れている桃山の特徴を紹介した。

オ 館蔵品から見る 貝と人

期間 2020年2月3日～ 臨時閉館により中断

長きに渡り様々なモノづくりの「素材」として利用されてきた貝について、特性やそこからの用途を展示した。

②刑事部門

ア 錦絵新聞と明治の風俗

期間 6月17日～9月25日 104日間

明治時代初期に流行した錦絵新聞を展示。錦絵新聞という特殊な浮世絵について、当時の風俗とともに紹介した。

③考古部門

ア 明大コレクション1：中国鏡

期間 3月30日～6月9日 68日間

戦国代から隋唐代までの中国鏡40面を展示。鏡の形状や文様の変遷を紹介。

イ 明大コレクション43：杉田遺跡

期間 6月14日～9月23日 102日間

1949年に調査された横浜市の縄文時代晩期の遺跡。土器編年の基準資料となった土器片のほか、石製祭祀具等を展示。

ウ 明大コレクション44：古代中国の玉と装飾品

期間 10月1日～12月18日 79日間

館蔵品の玉璧・帯鉤など、古代中国のアクセサリーに込められた意匠の数々を紹介。

エ 明大コレクション45：前場幸治コレクション⑦ 国分寺の文字瓦

期間 12月21日～ 臨時閉館により中断

型押・へら書きなどの方法で文字が記された「文字瓦」から、関東地方の国分寺の造営体制の実像について紹介。森本尚子氏制作。

(4) 図書館ギャラリー展示

①中央図書館ギャラリー

明大博物館コレクション PART 2

—商品陳列館再興と伝統的工芸品収集—

会期 11月23日～12月23日 31日間

1980年代に商学部教員が工芸品の産地におもむき盛んに調査・収集活動を実施していた。調査報告は地域の生活習俗との関わりが色濃く残る様子とともに、農間余業・問屋制家内工業といった前近代的な経営形態や農林水産業の衰退、機械化・量産化、石油化学製品の普及、コンピュータ技術の導入など時代の変化の波に翻弄される状況を記している。高度経済成長が終わり、先行不透明と形容される1980年代において、本来の人間らしい生活の中で人々がどのように商品形態を作りあげてきたか、その生活文化の形成のあり方を「現代文明の原動力」として見直すべきという問題提起に基づく調査研究活動の成果を再評価した。

②生田図書館ギャラリーZERO

プロセスとしての民藝

—旧明治大学商品陳列館収集資料から—

会期 2020年1月10日～1月20日 11日間

理工学部総合文化教室の鞍田 崇准教授とのコラボレーションにより1950～1960年代に商品陳列館が収集した工芸品を再評価した。「材料の再生」「用途の転換」「収集のプロセス」というキー・ワードを掲げ、民衆の工芸の特性である限られた資源を利用する工夫、身近にある材料の活用、一度用いた素材の再利用といったプロセス。高度経済成長という時代の大きな変化の中で新たな需要を模索するプロセス。博物館として工芸品を収集するプロセスに注目した。

II 教育普及活動

1 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座

①古墳時代の武器と武具

日時	5月14, 28日, 6月11日, 7月2日 火曜日		
定員	13:00~14:30〈全4回〉 定員20名		
会場	博物館教室		
講師	忽那敬三(考古部門学芸員)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	30名
《趣旨》 収蔵する古墳時代の武器や武具の実物を観察しながら、その種類と変遷、そして副葬の意味について考える。			
①古墳と武器・武具副葬 ②甲(よろい)の出現と変遷 ③冑(かぶと)と付属具 ④さまざまな鉄製武器			

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール

ア 第64回 「天皇陵」古墳を考える

【企画】忽那敬三・島田和高

【企画協力】明治大学文学部史学地理学科考古学専攻

日時	5月24, 31日, 6月7, 14日 金曜日		
定員	18:00~20:00〈全4回〉 定員100名		
講師	①今尾文昭(関西大学), ②徳田誠志(宮内庁), ③海邊博史(堺市博物館), ④白石太一郎(国立歴史民俗博物館名誉教授)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	100名
《趣旨》 世界遺産指定に関わり、関心が高まっている「陵墓」古墳と「天皇陵」古墳について、幕末・明治期以来の治定と保護の動きと、現在進められている調査と研究について紹介した。			
①「天皇陵」古墳とは何か-これまでの研究と問題点(今尾) ②古代高塚式陵墓の保全とその調査(徳田) ③百舌鳥古墳群はどこまで明らかになったか(海邊) ④「天皇陵」古墳の被葬者を考える(白石)			

イ 第65回 近江・雪野山古墳と4世紀の王権-古墳時代前期の社会に迫る-

【企画】忽那敬三・佐々木憲一

【企画協力】明治大学考古学研究室・滋賀県東近江市教育委員会

日時	10月4, 11, 18, 25日 金曜日		
定員	18:00~20:00〈全4回〉 定員100名		
講師	①佐々木憲一(明治大学), ②菊地芳朗(福島大学), ③松木武彦(国立歴史民俗博物館), ④北條芳隆(東海大学)		
受講料	¥5,000	受講登録者数	105名

《趣旨》

当時の発掘調査に参加した古墳時代研究者4名が、雪野山古墳の諸側面に改めて光をあて、古墳時代前期の歴史の中に位置付けたうえで、当時の王権のあり方に迫った。

- ①雪野山古墳の墳丘と埋葬施設(佐々木)
- ②雪野山古墳と4世紀の東日本(菊地)
- ③雪野山古墳の武器・武具と4世紀の王権(松木)
- ④雪野山古墳の玉と石製品(北條)

(3) 商学研究科と共催の公開特別講義

商学部・商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol. 14

進化する信楽焼の伝統

—陶器の流通・販売についての多様な可能性—

日時	11月29日 金曜日 10:50~12:30		
会場	リバティタワー1021教室		
講師	長谷川善文 (信楽焼振興協議会事務局長補佐)		
パネリスト	菊池一夫(商学部教授), 上原義子(商学部兼任講師・高千穂大学商学部准教授), 劉亜水(商学部助教)		
進行	外山徹(商品部門学芸員)		
参加費	無料	受講者数	254名
商学研究科「商品学特論B」、商学部「商品学B」「商業経営論B」「市場調査論B」の拡大版として実施。消費地に対するPR戦略や訪問客の誘致、商品開発の動向や流通、後継者育成のあり方が話題となった。商品開発では火鉢から植木鉢、ガーデンインテリアへというような需要の変化への柔軟な対応ができて来たこと。中間流通機構の弱体化による製造者と小売業者の直取引という全般の傾向に対し、産地卸売商が経営の多角化を図り存在感を維持していることなど信楽焼ならではの興味深い動向が紹介された。			

(4) 岩宿遺跡発掘70周年記念事業

【主催】群馬県みどり市教育委員会 明治大学博物館
岩宿フォーラム実行委員会

岩宿フォーラム2019①/講演会

岩宿遺跡と赤城山麓の旧石器文化

日時	9月8日 日曜日 10:00~16:30		
会場	明治大学グローバルフロント多目的室		
講師	①小菅将夫(岩宿博物館), ②早田勉(火山灰考古学研究所), ③須藤隆司(明治大学黒耀石研究センター), ④阿久澤智和(前橋市教育委員会), ⑤軽部達也(藤岡市教育委員会)		
進行	岩宿フォーラム実行委員会		
参加費	無料	受講者数	160名
①岩宿遺跡と旧石器時代の地域研究 ②旧石器時代の火山災害と自然環境 ③石器の変化と地域性			

- ④石器石材と入手法
- ⑤遺跡群と大がかりな石器作り

**岩宿フォーラム 2019②／シンポジウム
日本旧石器時代の研究の現状と課題**

日 時 会 場	11月2日(土) 13:30~18:00 11月3日(日) 9:00~15:00 みどり市笠懸公民館交流ホール
パネリス ト	①安蒜政雄(明治大学名誉教授), ②土肥直美(元琉球大学准教授), ③比田井民子(日本考古学協会), ④島田和高(明治大学博物館), ⑤御堂島正(大正大学), ⑥白石浩之(愛知学院大学), ⑦山田しょう(日本考古学協会)
進 行	岩宿フォーラム実行委員会
参加費	無料 受講者数 160名
	①岩宿遺跡の発見と日本列島の旧石器時代 ②沖縄の人類化石と人類の日本列島への渡来 ③旧石器時代の地形と遺跡の立地 ④石器石材の運搬ネットワーク ⑤石器に残された痕跡と実験 ⑥石器の編年と狩猟具の発達 ⑦旧石器時代人の生活と社会 パネルディスカッション

2 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

参加者数 明治大学6名
《実習内容》

館内施設・設備見学, ワークシート作成実習, 収蔵資料整理, 企画展監視員(来館者動向の観察)

②刑事部門

参加者数 明治大学8名
《実習内容》

館内施設・設備見学, 収蔵資料整理, 企画展監視員(来館者動向の観察)

③考古部門

参加者数 明治大学18名(学部生16, 院生1, 科目等履修生1)

《実習内容》
収蔵資料整理, 保存処理, 坂本万七写真研究所コレクション整理, 企画展パネル等製作, 企画展受付

(2) 見学実習受入れ

8月8日 和洋女子大学学芸員資格課程 33名
9月11日 南山大学学芸員資格課程 24名

3 在学生対象事業

**(1) 全学共通総合講座「大学博物館の現場
を実見する」**

秋学期開講 月曜4限
《授業の概要・到達目標・目的》

博物館の歴史及び大学博物館の成立事情から大学博物館の社会的な使命までを理解する。授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民による生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活動の一連の流れを理解する。

回	テーマ	担当者
1	博物館の役割と機能	駒見和夫※
2	博物館資料の形成2(弥生・古墳資料)	忽那敬三
3	博物館資料の形成1(旧石器・縄文資料)	島田和高
4	展覧会の開催まで(2018年度特別展)	忽那敬三
5	博物館資料の形成3(刑事関係資料)	外山 徹
6	博物館資料の形成4(商品関係資料)	外山 徹
7	我が国における大学博物館の現状と明治大学博物館の歴史	島田和高
8	博物館の施設・設備	島田和高
9	博物館資料の保管と整理1(考古資料)	忽那敬三
10	博物館資料の保管と整理2(古文書資料)	外山 徹
11	生涯学習活動と友の会活動	忽那敬三
12	古文書資料の調査・研究と資料公開	外山 徹
13	考古資料の発掘と調査・研究	島田和高
14	総括 ふりかえりと意見交換	駒見和夫

受講登録者数 39名

※文学部教授(学芸員養成課程)・博物館運営委員・本講座コーディネーター

(2) 国際日本学部「文化資料学」

春学期開講 月曜5限

《授業の概要・到達目標・目的》

現代日本文化の基層を形成するものとして、日本の歴史や過去の生活文化に対する理解は欠かせない。今日、我々は学校教科書をはじめ多様なメディアを通してそれらを学ぶことができるようになったが、そこに示されている事柄は、一体、どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのだろうか。それらは様々な文化資料(文化財)に対する調査・研究の積み重ねによって成り立っている。この授業では、文化資料(文化財)として最も広範に遺されている考古・歴史・民俗資料について取り上げる。これらの資料は地域博物館の収蔵体系の中心をなすものでもある。学術研究や教育普及への利用に供するため資料がどのように整理・保存・活用されているのかを講義形式で学び、博物館が収蔵する実物資料の取り扱いや街中で目にするのできる文化財指定物件のツアーを通して資料活用の状況を理解する。

回	テーマ	担当
1	文化財とは何か? —文化財保護法とユネスコ世界遺産	外山
2	考古遺物と文化2(弥生・古墳時代)	忽那

3	考古遺物と文化1 (旧石器・縄文時代)	島田
4	遺跡の保存と活用1 (旧石器・縄文時代)	島田
5	遺跡の保存と活用2 (弥生・古墳時代)	忽那
6	考古資料の展示と保管	島田
7	発掘された土器の洗浄と接合—考古資料の整理方法	忽那
8	古文書・古記録とは何か?—歴史叙述はどこから生まれるのか	外山
9	古文書・絵図から村の歴史を復元する	外山
10	古文書の整理—古文書はどのように後世に伝えられるのか	外山
11	金石文—地域に遺された歴史の痕跡	外山
12	民俗資料とは何か?—庶民の生活史を明らかにする	外山
13	有形民俗資料(民具)—祖先の暮らしを知る	外山
14	ふりかえり(ディスカッションと授業内小テスト)	忽那

中野キャンパス開講 受講登録者数 11名

4 アウトリーチ活動

(1) 出張授業

出講先 明治大学附属明治中学校
 テーマ 弥生ムラのタイムカプセル登呂遺跡
 日時 5月7日(火)
 対象 2年生
 講師 忽那敬三(考古部門学芸員)
 受講者数 179名

5 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

①福島県いわき市

いわき市教育委員会による内藤家文書磐城平城関係史料調査の受入れと資料写真データの提供。

②大英博物館所蔵ウィリアム・ガウランド写真資料(寄託資料)関連資料の活用事業

大英博物館の見解に基づき、当館寄託資料(後藤和雄氏撮影資料)については、当館より使用許可・写真データ提供が可能となった(事後報告のみ行う)。2019年度の外部貸し出しから運用を開始している。

(2) 大学間連携

南山大学人類学博物館との交流事業

①交換展示の実施

ア 刑事博物館前史—拷問・刑罰の記憶と記録
 会期: 9月28日~11月3日 入場無料
 会場: 南山大学人類学博物館常設展示室
 イ あかいろコレクション
 会期: 9月28日~11月4日 入場無料
 会場: 明治大学博物館常設展示室

②社会人向けギャラリートーク

ア 明治大 10月30日 10:00~16:00

講師 井原瑠梨(南山大学人類学博物館学芸員)
 参加者 来場者へ適宜解説
 ※当初予定されていた 10/12 15:00~16:00 は台風19号接近のため中止した。

イ 南山大 10月19日 13:30~14:30

講師 外山 徹(商品・刑事部門学芸員)
 参加者 11名
 ※終了後、16:00まで来場者へ適宜解説を行った。

③在学生向け特別講義

ア 南山大 5月24日 5限

テーマ 大学博物館の使命と機能
 講師 外山 徹(商品部門学芸員)
 受講生 73名

※黒沢浩教授「博物館概論」として実施

イ 明治大 11月15日 4限

テーマ すべての人の好奇心のための博物館を目指して
 講師 黒沢 浩(南山大学人文学部教授)
 受講生 30名
 ※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

④学術シンポジウム

テーマ モノと人を結ぶ
 —展示資料とのコミュニケーション—

日時 11月25日(月) 13:00~17:10

会場 駿河台キャンパス 12号館 10F 2103教室

参加者 34名

《開催趣旨》

明治大学博物館と南山大学人類学博物館は2010年度からの連携事業において、当初3ヶ年は博物館資料論を、昨年・一昨年はハンズオン及び参加・体験型プログラムについて議論を重ねてきた。

博物館には、抽象的な思考や仮想現実ではない資料としての“モノ”を保有するという根本的な性格規定がある。我々のシンポジウムでは、その中心たる“モノ”がそこにあることにこだわり、来館者はモノからどのような情報を得るのか、それによってどのようなインスパイアを受けるのか、モノと関わりを持った結果どのようなことが起こるのか、人とモノとのコミュニケーションのあり方について注目したい。

■報告

市橋芳則(北名古屋歴史民俗資料館 昭和日常博物館館長)

昭和日常博物館の試み—モノに対峙すると人と時と地域が結ばれる。

高橋 修(東京女子大学現代教養学部准教授)

モノとしての古文書の活用—その前提と今後についての考察—

駒見和夫(明治大学文学部教授)

土器と人を結ぶ知覚アプローチの可能性

■討論

パネリスト: 黒沢 浩・市橋芳則・高橋 修・駒見和夫
 進行・コーディネーター: 外山 徹(明治大学博物館学芸員)

6 情報発信

(1) 印刷物

① 広報誌『ミュージアム・アイズ』

A4判 16頁

73号特集 今甦る！琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳 (5,000部) 10月10日発行

74号特集 社会に飛び出す博物館資料 (5,000部) 2020年3月23日発行

② 『明治大学博物館年報 2018 年度』

100部 ウェブ公開のため配布は学内関係者のみ

③ その他

展覧会案内 2019年 (A4判三ツ折) 増刷 5,000部

展覧会案内 2020年 (A4判三ツ折) 20,000部

常設展示ガイドブック (A4判) 増刷 1,500部

(2) ホームページの公開

ごあいさつ、理念・目標／常設展示：大学史展示室、商品部門、刑事部門、考古部門／企画展・特別展：2019年・2020年展覧会案内、過去の展覧会／来館案内：開館時間・休館日・アクセス等、館内の取材・撮影について、博物館蔵資料の利用／団体見学について／図書・古文書の利用：博物館図書室、古文書閲覧のご案内／ミュージアムショップ M2：特別展図録、刊行物、郵送販売のご案内／教育プログラム／博物館の重点事業(政策経費の取り組み)／学芸スタッフ紹介／明治大学博物館友の会：入会のご案内、行事予定、展示解説ボランティアについて、図書室受付ボランティアの募集について、分科会のご案内／広報誌「ミュージアム・アイズ」／博物館年報／明治大学博物館アーカイブ／ニューズ一覧／イベント一覧／明治大学博物館公式 Facebook／明治大学博物館 公式 Twitter／明治大学博物館 公式 Instagram

(3) 報道機関等による取材

① 新聞・雑誌掲載

明治大学博物館紹介 「毎日新聞」毎日新聞東京本社

明治大学博物館紹介 『おすすめコース東京+横浜』教材研究所

明治大学博物館 刑事部門紹介 「月刊かみいな」アド・プランニング

明治大学博物館 刑事部門紹介 『東京大人のミュージアム』昭文社

明治大学博物館 刑事部門紹介 「TOKYO 人権」84号 東京都人権啓発センター

② テレビ放映

明治大学博物館紹介 「ニュース シブ 5 時」NHK 総合テレビ

明治大学博物館紹介 「COOL JAPAN～発掘！ かつこいニッポン～」NHK BS1

明治大学博物館 刑事部門紹介 「歴史科学捜査班」日本 BS 放送

特別展「見えているのに見えていない！ 立体錯視の最

前線」紹介 「錯覚の科学」放送大学

③ ラジオ放送・ウェブサイト・その他

明治大学博物館紹介 「JapanTravel.com」ジャパン・トラベル

特別展「見えているのに見えていない！ 立体錯視の最前線」紹介 WEB マガジン「ほとんど0円大学」エトレ

明治大学博物館 刑事部門紹介 「ベストタイムズ」KK ベストセラーズ

明治大学博物館 刑事部門紹介 「アーバンライフメトロ」(株)メトロ アド エージェンシー/メディア・ヴァーグ

明治大学博物館紹介 「介護アンテナ」ベネッセスタイルケア

明治大学博物館紹介 「LINE トラベル jp」ベンチャーリパブリック

明治大学博物館紹介 「ライムスター宇多丸の水曜 The NIGHT」Abema TV

※2019 年度中に取材受入れを決裁したものを掲載

(4) ミュージアムショップ

① グッズ販売

見本を展示、受付窓口で刊行物等有償頒布

《2019 年度新規開発商品》

Tシャツ (古墳ショコラ) S, M, L, XL 計 200 枚

ゆきのやまくんシール 200 シート

遮光器土偶ポストカード補充 200 枚

明治大学記念館ポストカード補充 100 枚

刑事ボールペン 300 本

② 他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレット・チラシを配布

③ 来館者の声

来館者による展示見学に関するコメント用紙を掲示

④ 友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

⑤ 博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

7 ボランティア受け入れ

(1) 常設展解説ボランティア

① 参加者 友の会会員 36 名

② 研修日程及び内容

日程	研修種別	研修内容
5月22日	博物館教育 他	展示解説の有用性—博物館教育論から、避難経路の確認
5月22日	商品部門 1 商品部門 2	伝統的工芸品の成立 伝統的工芸品の文化的背景

5月29日	商品部門3 商品部門4	工程の機械化・化学合成の問題 伝統的工芸品の価値創造
6月5日	刑事部門1 刑事部門2	日本の罪と罰, 捜査と逮捕 他
6月19日	考古部門1 考古部門2	旧石器時代・縄文時代 他
6月26日	考古部門3 考古部門4	弥生時代・古墳時代 他
7月3日	刑事部門3 刑事部門4	取り調べ, 刑罰 他

※2020年2月26日に予定されていたフォローアップ研修は中止となった。

(2) 図書室ボランティア

①友の会会員

・受付・入退出対応 40名 ・書架整理 3名

8 明治大学博物館友の会

(1) 概要

①会員数

587名 ※2020年3月31日現在

②総会

5月11日(土) アカデミーコモンA1～3会議室
2018年度事業報告/2018年度会計監査報告/2019年度事業計画/2019年度予算案/永年会員表彰・ボランティア活動表彰

(2) 活動

①講演会

- ア 総会特別講演会「古墳から見た吉備と倭王権」
5月11日
岡山大学名誉教授 新納泉
- イ 近世史・相撲史講演会「江戸の大相撲を探访する」
6月25日
相撲博物館学芸員 土屋喜敬
- ウ 第16回古代史講演会「光明皇后と聖武天皇～夫婦の絆を確かめる」
7月27日
京都女子大学名誉教授 瀧浪貞子
- エ 講演会「日本考古学2019」
9月28日
「身体装飾の発達と縄文の社会構造」
明治大学文学部教授 阿部芳郎
「徳島県阿南市加茂宮ノ前遺跡の調査成果」
公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター事業課長 氏家敏之
- オ 近世史講演会
12月23日
「キリシタン禁令と鎖国の形成」
明治大学文学部准教授 清水有子
「キリシタン信仰理解に資するかくれキリシタン研究の成果」
平戸市生島町博物館「島の館」学芸員 中園成生

- カ 雅楽講演会「雅楽の観かた・楽しみ方」
2020年2月8日
雅楽瑞鳳會主席 三田徳明
- キ 会員発表会
2020年3月4日
※新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み延期

②見学会

- ア 第24回会員案内による地元見学会 江東区を訪ねる
Part2「中川船番所資料館と亀戸の寺社をたずねて」
4月3日
案内会員 高橋幸子
現地講師 公益財団法人江東区文化コミュニティ
財団中川船番所資料館 久染健夫
現地案内 江東区文化観光ガイドの会
岩渕和恵他4名
- イ 江戸時代を探访する PartⅧ「幕末の歴史遺産 品川御台場を歩く」
6月4日
現地講師 品川区立品川歴史館学芸員 富川武史
ウ 「関東の遺跡巡り—その2 房総3か国(千葉)—」
10月31日～11月2日
台風15号・19号および実施予定日直近の記録的大雨の影響により中止

③広報活動

- ア 会報発行 年4回(春・夏・秋・冬)
イ 行事案内 友の会ホームページでの情報提供
ウ 友の会掲示板の活用, 行事チラシの作成

④博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	40名
博物館図書室書架整理	月1～2日	3名
展示解説	火・木・金	36名

⑤学習サークル(活動原則として月1回)

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	29名	外山学芸員 森朋久氏※1
平成内藤家文書研究会	15名	伊能秀明氏※2
工芸の会	15名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	27名	島田学芸員
弥生文化研究会	30名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	42名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	27名	
前方後円墳研究会	33名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	28名	
古代東北アジアと日本研究会	25名	
飛鳥・藤原を学ぶ会	29名	

- ※1 明治大学農学部兼任講師
※2 元明治大学刑事博物館学芸員

Ⅲ 研究活動

1 調査・研究活動

(1) 商品部門

①伝統的工芸品産業のマーケティング研究（信楽焼）

ア 滋賀県信楽焼調査（9月3日～4日）

メーカー調査（丸滋製陶、古谷製陶所）

卸売商社ショールーム視察

丸滋製陶は大型の什器を製造するメーカーとして火鉢・植木鉢生産から傘立て・洗面ボール・ガーデンインテリアへと商品開発をシフトさせ、工業デザイナーと提携してのテーブルウェア生産も手がける。古谷製陶所では手作りのテーブルウェアを生産しており大都市圏への出張販売、インターネットの活用などが注目された。

調査員：菊池一夫（商学部教授）、劉亜氷（商学部助教）、外山徹

②創業者出身地自治体の伝統的工芸品調査

ア 越前漆器調査（8月21日～22日）

越前漆器協同組合 株式会社漆琳堂

常設展示の創業者出身地自治体の工芸品による充実のための情報収集。

(2) 考古部門

①科研費基盤研究（B）（研究期間：2019～2022年度、研究代表者：島田和高 博物館事務局）

科研費による共同研究「最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間－環境相互作用」を実施した（研究分担者：吉田明弘：鹿児島大、橋詰潤：新潟県歴博、眞島英壽：COLS、中村由克：COLS）。今年度の主な研究テーマは（1）長野県野辺山矢出川湿原の古環境調査の実施、（2）携帯型蛍光X線分析装置（p-XRF）による黒曜石原産地分析、である。ほかに、安山岩原産地判別の新手法開発も実施した。また、2019年5月24日～6月1日の日程で International Obsidian Conference (IOC) 2019 Hungary およびカラパチア山脈黒曜石原産地の巡見に参加し、海外研究者との情報交換と研究成果の口頭発表を行った。

- (1) 中部高地黒曜石原産地における酸素同位体ステージ3の古植生と森林限界の高度を復元するため、10月12～23日にかけて、矢出川湿原を対象に、ロシアンサンプラーと機械ボーリングによるボーリング調査を実施した。今年度はコアの記載と有機物の年代測定を実施した。なお、現地では南牧村教育委員会から多大な協力を頂いた。
- (2) 中部高地黒曜石原産地における旧石器時代人による黒曜石原石の獲得領域と行動系を復元する

ために、p-XRF（Burker 製 Tracer 5i）を導入した。今年度は、MURR（ミズーリ大研究原子炉施設）が作成した黒曜石元素分析用のプレインストール検量線のテストと、眞島・島田（2019）に記載した成分既知の基準試料を用いた独自検量線を試作した。今後、中部高地原産地から得られた旧石器石器群の大規模原産地分析を実施する予定。

②展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

駒澤大学/Rákóczi Museum of the Hungarian National Museum at Sárospatak/千葉科学大学/史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館/岩宿博物館/南牧村美術民俗資料館/天理ギャラリー/石岡市立ふるさと歴史館/茨城県立歴史館/房総風土記の丘資料館/上高津貝塚考古資料館/古代オリエント博物館

③伝玉里舟塚古墳資料報告書作成作業

収蔵埴輪資料の実測作業を実施。

④三味塚古墳武具整理作業

明治大学文学部考古学専攻と共同で報告書作成作業を実施。茨城県教育委員会・茨城県立歴史館・文化庁と元興寺文化財研究所で武具の保存修復作業の検討会を実施。

※武具類の保存修復作業は茨城県の予算で実施中。2021年度終了予定。

2 研究業績

(1) 論文・著書

島田和高（2019）「石器石材の運搬ネットワーク」『岩宿遺跡と日本列島の旧石器時代研究』岩宿博物館・明治大学博物館・岩宿フォーラム実行委員会、pp. 65-72

外山徹（共編著）（2019）『見えているのに見えていない！立体錯視の最前線』（2019年度明治大学博物館特別展図録）62p

(2) 学会発表

島田和高「長野県広原旧石器時代遺跡と原産地行動系の復元」日本考古学協会第85回総会 セッション3：『黒曜石と原産地をめぐる人類の行動研究の新局面』2019年5月29日（日）、駒澤大学1号館、『日本考古学協会第83回総会研究発表要旨』：pp. 110-111）、口頭
Shimada, K. A local behavior system for obsidian acquisition in a source area: Integrative lithic analyses focused on the Early Upper Palaeolithic industry of Hiroppara II in the Central Highlands,

Japan. In: International Obsidian Conference 2019, Sárospatak, Hungary, 27/May/2019, oral presentation.

島田和高・吉田明弘（鹿児島大）・橋詰潤（新潟県立歴史博物館）・隅田祥光（長崎大）「最終氷期の中部高地と黒曜石原産地における人間-環境相互作用」日本第四紀学会 2019 年大会, 2019 年 8 月 23・24 日, 千葉科学大学, ポスター

島田和高「最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間-環境相互作用」黒曜石研究センター研究集会 2019, 2019 年 12 月 7 日(土), 明治大学博物館, 口頭

(3) 講演等

島田和高「黒曜石の山をめざす氷期の狩猟採集民-古環境と黒曜石利用のダイナミクス-」史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館（旧石器ハテナ館）, 2019 年 7 月 27 日, 講演

忽那敬三「日本考古学の父 ウィリアム・ガウランド」川越市立博物館 2019 年 11 月 20 日, 講演

3 刊行物

(1) 『明治大学博物館研究報告』第 25 号 (1,100 部)

《資料報告》

千葉県佐倉市岩名天神前遺跡における再葬墓出土資料の再報告 植木雅博

《公開特別講義抄録》

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.14

進化する信楽焼の伝統：陶器の流通・販売についての多様な可能性 伝統的工芸品の経営とマーケティング・プロジェクト推進部会

4 大久保忠和考古学振興基金

成果報告書を刊行予定。2020 年度に運営委員会を開催し、規程を廃止して終了する予定。

IV 収蔵資料

1 資料収集

(1) 資料数（部門別）

		刑事	考古	商品	合計
受 入	購入	11	1	24	36
	受贈	0	0	1	1
合計		11	1	25	37
前年度総数		215,248	218,647	5,009	438,904
今年度総数		215,259	218,648	5,034	438,941
時田昌瑞ことわざコレクション					1,450
前場幸治瓦コレクション					10,725
総合計					451,116

※実測図・書籍・写真は含めない

《参考》年度別収蔵数（部門別）

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2014	16	193 ※1	1	4,923	1	2
2015	8	1	2	0	20	13
2016	14	0	2	0	6	84
2017	1	4	1	134,974	23	20
2018	4	188 ※2	2	9	7	78

※1 他に未整理文書 19 箱分あり

※2 他に未整理文書 8 箱分あり

(2) 購入資料一覧

種別・分類	資料名
絵画資料	温故東の花 第六篇 旧諸侯上野初御仏参之図／揚州周延・画
	温故東の花 第七篇 將軍家於吹上而公事上聴之図／揚州周延・画
	東京之相撲筑前秋月之賊生捕高名ノ図一族誅殺図／原画 円山応挙「七難七福図巻」
	江戸名所御茶の水／安藤広重・画
古文書・古典籍・古地図等	天保 9 年御触書之写（長脇差持歩禁令）
	享保 12 年髮結職分由緒書之事
	嘉永 3 年焼場方角附
	安政 5 年やけば方角
考古遺物	宝暦 6 年駿河台小川町図／鼈峰依為質・編組頭入札資料
	細形銅剣
商品資料	布志名焼大根茶碗／雲善窯土屋幹雄・作
	天童将棋駒 彫り駒 字母紙貼り・紙剥し 2 工程
	天童将棋駒 盛上駒 工程
	天童将棋駒 書き駒 草書体
	将棋盤（3 寸厚）
	越前漆器 器胎の種別を紹介する半製品 6 点（朴・栃木地、木合器胎、プラスチック器胎）
	越前漆器 合成漆器製品 5 点（ピッチャー古代朱・溜、ピッチャー箔銀渦茶朱・黒、カレー皿、三段重 溜、都盆後藤塗）
	越前漆器 塗り見本椀 8 点（拭き漆、木地呂塗、溜塗、黒漆塗、朱漆塗、内朱外黒塗、ウレタン黒、ウレタン朱）

(3) 受贈資料

部門	資料名
刑事	なし
商品	備前焼 棧切 花入／山本雄一・作
考古	なし

(4) 寄託資料

①『刑罪大秘録』他 3 点：受託期間 2017 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 ※5 年ごとに更新

②故里見庫男氏所蔵文書 (3373 点)：受託期間 2019 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 (福島県いわき市域の村方文書 譜代大名内藤家の旧領地域 地元の郷土史研究団体「いわき地域史学会」及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群) ※3 年ごとに更新

③大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写 (458 点)：受託期間 2018 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日 ※3 年ごとに更新

④茨城県三味塚古墳出土土冑・短甲・小札：受託期間 2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日 ※毎年更新、2020 年度から 3 年ごと更新に変更予定

(5) 資料修復

①考古部門

- ア 大室第 187 号墳出土 鉄刀 1 点
- イ 江原台遺跡出土 土偶 1 点 (台座もあわせて制作)
- ウ 赤坂遺跡出土 鉄斧 1 点

(6) 教材製作

該当なし

2 資料整理

①商品部門

- ア 収蔵資料所在調査・再配架 (陶磁器)
- イ 受贈資料の整理 (台帳カード作成及び梱包, 収蔵室への配架作業) 保存容器を作製し陶磁器関係資料を収納した
- ウ 架蔵態勢の整備 (再梱包, 収納箱ラベルの更新等)

②刑事部門

- ア マイクロフィルム等 2 次資料整理
- イ 劣化傾向の古文書保存用封筒の交換
- ウ 古文書資料の史料目録との照合による欠本確認

③考古部門

- ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
- イ 茨城県舟塚古墳・三味塚古墳出土資料の整理
- ウ 収蔵資料の所在確認
- エ 矢島恭介資料の整理 (点数・内容確認)

3 資料記録

①撮影

今年度は実施せず

②デジタル化

ア 商品・刑事部門

該当なし

イ 考古部門

旧石器～縄文時代遺跡発掘記録類のデジタルデータ化、および 3D スキャナによる石器遺物の三次元計測を実施 (博物館重点項目「考古遺物の多視点的アーカイブ」事業)。

4 資料利用

(1) 資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合計
一次資料 出品数	0 点	870 点	—	870 点
レプリカ等 出品数	0 点	8 点	—	8 点
撮 影	867 点	4 点	—	871 点
掲載等	153 点	202 点	9 点	364 点
合 計	131 件 1,020 点	105 件 1,084 点	2 件 9 点	

《参考》年度別資料利用数推移

	出展数 (レプリカ内数)	撮影	掲載
2014	862 (12)	1,184	576
2015	595 (6)	885	472
2016	733 (28)	797	547
2017	655 (6)	654	467
2018	748 (6)	1,254	1,279
2019	878 (8)	871	364

(2) 収蔵資料閲覧

	刑事		考古	商品
調 査 閲 覧	古文書 2,018 点	マイクロ 127 リール	35 件	1 件 21 点
人 数	137 名			

《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古
	古文書(点)	マイクロ(本)	人数	件数
2014	4,488	214	165	50
2015	3,913	269	254	35
2016	1,644	308	131	46
2017	1,106	596	105	45
2018	2,131	137	103	27
2019	2,018	127	137	35

(3) 貸出先・展覧会・出展資料一覧**① 刑事部門**

該当なし

② 考古部門

ア 港区教育委員会

港区立港郷土資料館及び港区立郷土歴史館常設展示
貸出期間：2019年5月25日～2020年3月31日
東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点

イ 群馬県立歴史博物館

第100回企画展「ハート形土偶 大集合!!—縄文の
かたち・美、そして岡本太郎—」
会期：2019年9月28日～12月1日
千葉県江原台遺跡出土山形土偶 計1点

ウ 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・
「石器文化の地域性」のコーナーに展示）
貸出期間：2019年7月1日～2020年6月30日
群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点

エ 新潟県立歴史博物館

天皇陛下御即位記念、第34回国民文化祭、第19回
全国障害者芸術・文化祭 新潟県立歴史博物館特別
展 国民の文化財「あ、コレ知ってる！はにわ、ど
ぐう、かえんどきの昭和平成」
会期：2019年9月14日～11月4日

神奈川県夏島貝塚出土尖底深鉢形土器 他 計30点

オ 福島県立博物館

企画展「あにまるざーどうぶつの考古学—」
会期：2019年9月7日～11月17日
伝備前国装飾付脚付壺（複製） 計1点

カ 岩宿博物館

岩宿遺跡発掘70周年記念特別展②（第69回）「岩
宿遺跡と日本の近代考古学」
岩宿遺跡発掘70周年記念特別展③（第70回）「岩
宿遺跡と群馬の考古学」
会期：2019年10月5日～2020年3月15日
群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器 他 計57点

キ 神奈川県教育委員会教育局

令和元年度かながわの遺跡展「縄文と弥生—時代と
文化の転機を生きた人々—」

① 神奈川県立歴史博物館特別展示室

会期：2019年11月27日～12月22日

② 綾瀬市役所 7F 市民展示ホール

会期：2020年1月9日～1月26日

神奈川県杉田遺跡出土土器片 他 計90点

ク 奈良国立博物館

特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス
原板—文化財写真の軌跡—」

会期：2019年12月7日～2020年1月13日

坂本万七撮影写真〈法隆寺五重塔北面侍者像（北
-22）〉他 計2点

ケ 埼玉県立歴史と民俗の博物館

企画展「縄文時代のたべもの事情」

会期：2020年1月2日～2月16日

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他 計5点

コ 岩宿博物館

岩宿遺跡発掘70周年記念特別展③（第70回）「岩
宿遺跡と群馬の考古学」

会期：2020年2月1日～3月15日

群馬県岩櫃山鷹の巣岩陰遺跡出土土器 他 計13点

サ 国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室（先史・古
代）（大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」・大テ
ーマⅡ「多様な縄文列島」・大テーマⅢ「水稻耕作の
はじまり」において展示）

貸出期間：2020年4月1日～2021年3月31日

長野県矢出川第1遺跡出土石器 他 計28点

シ 岩手県立博物館

岩手県立博物館常設展示

貸出期間：2020年4月1日～2021年3月31日

岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点

ス 港区郷土歴史館

港区立港郷土資料館及び港区立郷土歴史館常設展示

貸出期間：2020年4月1日～2021年3月31日

東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 計109点

セ 市立市川考古博物館

市立市川考古博物館常設展示

貸出期間：2020年4月1日～2021年3月31日

佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器 他 計80点

※2019年度中に貸出手続きが完了したものを掲載

(4) その他の資料利用**① 刑事部門**

ア 株式会社 岩波書店

渡辺尚志著『日本近世村落論』にて分析のために利
用 出羽国村山郡観音寺村岡田家文書

イ いわき市

磐城平城文献等調査（いわき市教育委員会）

内藤家文書磐城平城関係資料写真データ 計104点

② 商品部門

ア 立正大学地球環境科学部

戦中戦後期のアクセサリー地金素材に関する研究
LA39 ビーズ製ネックレス 他 計2点

(5) 資料掲載利用一覧**① 刑事部門**

『牢内深秘録』西大牢の牢内役人 『歴史 REAL 大江
戸暮らし図鑑』 洋泉社

『徳川幕府刑事図譜』拷問の図（答打）他 「につぼ
ん！歴史鑑定」#80『大奥スキャンダル～絵島生島
事件』（再放送） BS-TBS

今川仮名目録 『歴史探訪』6月号「名将ランキング」
ホビージャパン

- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 『2021年入試 ベストセレクション日本史B 重要問題集』 実教出版
- 内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 延岡城の現在の状況と有馬時代の状況を比較するCGを延岡市公式ホームページや市民フォーラム等で利用、「城山公園城跡景観等有識者会議」からの提言書に添付する資料として利用、延岡城の石垣マップを作成し見学用パンフレットとして配布、ホームページ掲載、延岡城内に設置予定の石垣説明板に利用
- 時世のぼり凧 「2020—駿台 大学入試完全対策シリーズ 大学入試センター試験過去問題集 日本史B」書店販売問題集（改訂版） 駿台文庫
- 御成敗式目 『歴史 REAL 承久の乱』 洋泉社
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 『思考力問題の研究 大学入試共通テスト実践編 予想問題集付き（英数国のみ）』 旺文社
- 鑑札 株仲間札 『秋田県版 学力診断問題 3年5回』 正進社
- 今川仮名目録 第29条 「NHK高校講座・日本史 第16回 下剋上の社会と戦国大名」 NHK Eテレ
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 「大学入学共通テスト対策 教育開発出版
- 伏見関門口豊後橋進撃之図（慶応4年正月）『歴史人』8月号 特集「幕末諸隊の真実」KKベストセラーズ
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図（十手の使用法）他 『改定版 江戸の町と暮らしがわかる本』 メイツ出版
- 邪蘇宗門御改帳 『秋田県版 学力診断問題 3年6回』 正進社
- 内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 『杵築城跡（台山部分）確認調査報告書』 杵築市教育委員会
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 「大学入学共通テスト対策プリント」 中央出版
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 『大学入学共通テストへの道 日本史一問題と解説一』 山川出版社
- 高札 太政官札 キリシタン禁制（慶応4年） 2019年度後期（高3・高卒生対象）『日本史写真資料集』河合塾
- 『徳川幕府刑事図譜』 賭博の図 他 「歴史科学捜査班」 日本BS放送
- 時世のぼり凧 「2020—駿台 センター試験実戦問題バックV 日本史B」学校販売教材 駿台文庫
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 『はじめての共通テスト対策 日本史B』 Z会
- 常設展示室 刑事部門 ニュルンベルクの鉄の処女・ギロチン 他 『都内バスさんぽ旅』 ぴあ
- 内藤家文書 1-20-269 遠州浜松・参州吉田得替御用留帳 他 「引越し大名！」特番 テレビ東京
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 『チェック&演習 日本史B』数研出版
- 内藤家文書 2-9-11 平寺社門前江申渡口上覚 新聞コラム「古文書を読む」 福島民友新聞社
- 『徳川幕府刑事図譜』 賭博の図 川田純之『徘徊する浪人たち』 随想舎
- 鑑札 株仲間札 「NHK 高校講座 日本史 第23回 『幕藩体制の動揺と政治改革』」 NHK
- 相模国津久井郡千木良村文書 10-書冊-0-1 相州津久井郡千木良村五人組改帳 他 溝口重郎『溝口家の源流を訪ねて—悠久の先祖の足跡を調査—』 文成社
- 常設展示室 刑事部門 ニュルンベルクの鉄の処女・ギロチン 他 『行きたい！企業ミュージアム』 イカロス出版
- 『徳川幕府刑事図譜』 獄門の図 跡部蛮『江戸東京透視図絵』 五月書房新社
- 常設展示室 刑事部門 ニュルンベルクの鉄の処女・ギロチン 他 『Time Out Tokyo』25号 ORIGINAL Inc.
- 地方測量之図 「NHK 高校講座 日本史 第25回 『新しい学問の形成と化政文化』」 NHK
- 今川仮名目録 『日本史かわら版』8号 帝国書院
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 『大学入学共通テスト 日本史B 予想問題集』 KADOKAWA
- 地方測量之図 『社会科資料集 6年』『教師用デジタル版社会科資料集「しゃかロム」』 日本標準
- 内藤家文書 2-9-15 遊行五十一世上人廻国覚書 新聞コラム「古文書を読む」 福島民友新聞社
- 常設展示室 刑事部門 高札 他 『春夏秋冬ぴあ 日帰り遊び 首都圏版 2020-2021』 ぴあ
- 地方測量之図 小学校デジタル教科書「新しい社会」（指導者用・学習者用）他 東京書籍
- 鑑札 株仲間札 「アタック25」 朝日放送
- 『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 「読売新聞 朝刊」 読売新聞東京本社
- 内藤家文書 2-4-23 江戸番控 新聞コラム「古文書を読む」 福島民友新聞社
- 内藤家文書 増補・追加5-12 五十三次ねむりの合の手 神崎直美「日向国延岡藩内藤充真院著『五十三次ねむりの合の手』小考」（『城西人文研究』第34号） 城西大学経済学会
- 『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 『地図と写真でわかる江戸・東京』 西東社
- 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図（十手の使用法）他 『江戸のひみつ 町と暮らしがわかる本』 中国語版 メイツユニバーサルコンテンツ
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 「2020 1学期テキスト 共通テスト日本史」 代々木ゼミナール
- 仮名目録追加 歴史探訪 MOOK シリーズ『明智光秀と戦国の名将たち』 ホビージャパン
- 地方測量之図 教材 DVD「すすむ千葉県」 NHK エンタープライズ
- 地方測量之図 「douga pocket」 東京書籍
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 「スタディサプリ 共通テスト対策講座 日本史」（冊子版・web版） リクルートマーケティングパートナーズ

- 地方測量之図 塾採用専用教材「小学ウィンパス社会6年」 文理
- 出羽国村山郡観音寺村絵図(天明3年) 渡辺尚志『日本近世村落論』 岩波書店
- 内藤家文書 2-1-213 御祝御膳覚書 節分、大晦日、正月 新聞コラム「古文書を読む」 福島民友新聞社
- 地方測量之図 2020年度版『社会4年デイリーサピックス 440-08』 日本入試センター
- 鑑札 株仲間札 「英雄たちの選択 遠山の金さん 天保の改革に異議あり！」 NHK BSプレミアム
- 鑑札 株仲間札 「英雄たちの選択 遠山の金さん 天保の改革に異議あり！」 NHK オンデマンド
- 内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 他 『延岡城石御門跡発掘調査概要報告書』
- 出羽国村山郡観音寺村岡田家文書 16-書状-D-1 観音寺村絵図 他 小関美紗「出羽国村山郡観音寺村における山野利用の変遷」(『歴史遺産研究 第14号/2020』) 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科
- 内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 延岡城内に設置予定の総合案内板に使用
- 地方測量之図 他 NHK デジタル教材「NHK for school」踏絵(レプリカ) 『OAG-NOTIZEN』 ドイツ東洋文化研究会
- 内藤家文書 1-20-312 奥州岩城ヨリ日州延岡江御所替二付万留書 新聞コラム「古文書を読む」 福島民友新聞社
- 板倉家文書 「亀山市史」ウェブ版 亀山市
- 名和コレクション 鎖鎌(石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
- 鑑札 株仲間札 『日本の歴史』第13巻 講談社
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 「2021 共通テスト対策過去問題集 日本史B」書店販売問題集 駿台文庫
- 内藤家文書 1-9-25 覚書 大賀郁夫「長州戦争と譜代延岡藩—「御用部屋日記」から—」(『宮崎公立大学人文学部紀要』第27巻第1号) 宮崎公立大学
- 下野国安蘇郡閑馬村絵図 「共通テスト実践模試日本史B」 Z会
- ②考古部門
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 進研ゼミ 中高一貫講座 中1 Challenge 英数国理社/8月号/タイプ共通/本文』 ベネッセコーポレーション
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『2020 マーク式総合問題集 日本史B』 河合塾
- 「火竟」銘倣製鏡(全体) 他 『古代天皇の誕生』 KADOKAWA
- 新潟県荒屋遺跡出土細石器 他 『2019年度広島経済大学 入試問題』 広島経済大学
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 佐藤宏之『旧石器時代』 敬文舎
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 メインレッスン社会(デジタル教材)/8月号/中1 共通/U8 古代までの日本1,2』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 夏の特別 Challenge 中1/8月号/共通/なし』 ベネッセコーポレーション
- 常設展示室考古部門 「土偶ミステリー～日本最古のフィギュア その謎に迫る～」 NHK
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『2019年度夏期講習(高3・高卒生対象)「日本史集中講義(古代～近世)」』 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『河合塾 日本史テーマ別解説授業映像(仮)』(河合塾 e-learning システムの日本史映像コンテンツ:掲載期間:2020年4月より1年間) 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『河合塾 日本史テーマ別解説授業映像(仮)』(河合塾 e-learning システムの日本史映像コンテンツ:掲載期間:2021年4月より1年間) 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『河合塾 日本史テーマ別解説授業映像(仮)』(河合塾 e-learning システムの日本史映像コンテンツ:掲載期間:2022年4月より1年間) 河合塾
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2019年度 中二5教科要点まとめ事典』 ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石器 松本亘正『「だから、そうなのか!」とガツンとわかる歴史の授業(旧石器～安土・桃山時代)』 実務教育出版
- 「火竟」銘倣製鏡(全体) 『火焰の鴉 古代豪族ミステリー 加茂氏篇』 角川春樹事務所
- 東京都芝公園出土須和田式壺形土器 他 令和元年度特別展「港区と考古学—未来へつなぐ、遺跡からのメッセージ」展示図録 港区立港郷土資料館及び港区立郷土歴史館
- 大阪府塚原古墳群の石室に立つガウランド写真 井上信隆『博物館だより』 みやこ町歴史民俗博物館
- 群馬県武井遺跡での集合写真 領塚正浩「日本考古学研究時代時代の篠遠喜彦氏」(『季刊民族学』169号 国立民族学博物館友の会機関誌 一般財団法人千里文化財団)
- 千葉県堀之内貝塚出土鉢形土器 他 井口直司『ずかん縄文土器』 技術評論社
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 他 天皇陛下御即位記念、第34回国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭 新潟県立歴史博物館特別展「国民の文化財」図録相当出版物『あ、コレ知ってる!はにわ、どぐう、かえんどきの昭和平成』 新潟日報事業者
- 坂本万七(法隆寺五重塔北面侍者像)(北-21) 岡塚章子、金子隆一、説田晃大『写真家たちがとらえた文化財の記録 国宝ロストワールド』 小学館
- 群馬県岩宿遺跡A地点発掘調査風景 田名向原遺跡学習館主催考古探訪ツアーの広報媒体 田名向原遺跡学習館

- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他 静岡県校長会、教員指導力向上委員会(監修)『静岡県中学校学力診断調査 3年』 静岡教育出版社
- 群馬県岩宿遺跡発掘風景 「反骨の考古学者 ROKUJI」 NHK 4KBS
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2019年度 考える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト 1月号 共通』 ベネッセコーポレーション
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 『8月ゼミ 小6社会』 塾用プリント ティエラコム
- 東京都新島田原遺跡調査時写真 杉山浩平「海上を運ばれた黒曜石—弥生時代を中心に—」(シンポジウム『海峡をつなぐ資源と道具』予稿集) 明治大学黒曜石研究センター
- 伝備前国装飾付脚付壺(複製) 企画展「あにまらず—どうぶつの考古学—」展示図録 福島県立博物館
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『佐鳴予備校「Perfect!」愛知県版』(塾用問題集) 学書
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他 『2019年度立命館大学入試プレステージ 日本史問題(高3・高卒生対象)』 河合塾
- ウィリアム・ガウランド撮影 仁徳天皇陵(大仙)古墳 『日能研公開模擬試験 実力判定テスト 小学5年生 社会科』 日能研
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 古谷紀文『図説 都筑の歴史』都筑区役所、都筑区ふるさとづくり委員会
- ウィリアム・ガウランド撮影高安千塚古墳群(二室塚内部) 吉田野乃・藤井淳弘『高安千塚古墳群』(シリーズ「遺跡を学ぶ」138) 新泉社
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『チェック&演習 日本史B』 数研出版
- 千葉県堀之内貝塚・貝塚断面写真 国史跡パンフレット『市川の5つの史跡』 市川市教育委員会
- 青森県金木砂礫層の発掘現場写真 他 領塚正浩「ヨハネス・マーリンガー神父と考古学研究所」『南山大学人類学博物館紀要』第37号 南山大学人類学博物館
- 群馬県岩櫃山山頂に立つ杉原荘介写真 令和元年度企画展「海をみつめた古代人—イブスキ人の起源—」展示パネルおよび図録 指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石器 田名向原遺跡学習館主催考古探訪ツアーの広報媒体 田名向原遺跡学習館
- 神奈川県夏島貝塚出土骨製釣針 『社会科資料集6年』教育同人社
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『すらら』中学生(小学生)版「社会」(デジタル教材)すららネット
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 『平成30年度 山野貝塚講演会 山野貝塚から縄文時代のムラと社会を探る 記録集』袖ヶ浦市教育委員会
- 神奈川県杉田遺跡土層と出土土器片 他 令和元年度かながわの遺跡展「縄文と弥生—時代と文化の転機を生きた人々—」展示パネル 神奈川県教育委員会・神奈川県立歴史博物館・綾瀬市教育委員会
- 栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 小6社会』(塾用問題集、テスト含む) 学書
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 中1社会』(塾用問題集) 学書
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『2019年度冬期講習(高3・高卒生対象)日本史集中講義(古代~中世)』 河合塾
- 群馬県武井遺跡出土土尖頭器 他 『中学パーフェクトコース改訂版 わかるをつくる中学社会(仮)』学研プラス
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 企画展「縄文時代のたべもの事情」での広報物・展示パネル 埼玉県立歴史と民俗の博物館
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 前田基行(部分)『朝日中高生新聞』12月1日号 朝日学生新聞社
- 栃木県篠山貝塚出土縄文式深鉢形土器 『小6社会をひとつひとつわかりやすく 改訂版』学研プラス
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 河合塾マナビス(高校生対象)『共通テスト対策日本史B(原始・古代)』河合塾
- 青銅戈(A-117)器身全体 他 下田誠「明治大学博物館蔵銅戈考」(「東北アジア青銅文化比較研究国際学術シンポジウム」発表PPTおよび予稿集)
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度メインレッスン社会(デジタル教材)』ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 他 『2020年度Challenge 社会』ベネッセコーポレーション
- 岩宿遺跡最初の発掘調査時写真 他 岩宿大学広報ポスター 岩宿博物館
- 岩宿遺跡最初の発掘調査時写真 他 無料公開講座「岩宿遺跡と日本の近代考古学」チラシ 岩宿博物館
- 岩宿遺跡最初の発掘調査時写真 他 岩宿遺跡発掘70周年記念特別展(1)「相澤忠洋—その生涯と研究—」展示図録 岩宿博物館・相澤忠洋記念館
- 岩宿遺跡最初の発掘調査時写真 他 岩宿遺跡発掘70周年記念特別展(2)「岩宿遺跡と日本の近代考古学」ポスター 岩宿博物館・相澤忠洋記念館
- 岩宿遺跡最初の発掘調査時写真 他 岩宿遺跡発掘70周年記念特別展(2)「岩宿遺跡と日本の近代考古学」展示図録 岩宿博物館・相澤忠洋記念館
- 岩宿遺跡最初の発掘調査時写真 他 岩宿遺跡発掘70周年記念特別展(3)「岩宿遺跡と群馬の考古学」ポスター 岩宿博物館・相澤忠洋記念館
- 岩宿遺跡最初の発掘調査時写真 他 岩宿遺跡発掘70周年記念特別展(3)「岩宿遺跡と群馬の考古学」展示図録 岩宿博物館・相澤忠洋記念館

- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『2019年度全統共通テスト高2模試問題 地理歴史「日本史B」』 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」(掲載期間: 2020年4月より1年間) 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」(掲載期間: 2021年4月より1年間) 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 河合塾ホームページ「全統模試分析システム Kei-Navi」(掲載期間: 2022年4月より1年間) 河合塾
- 東京都茂呂遺跡調査風景写真 他 板橋区立郷土資料館常設展示パネル・図録 板橋区立郷土資料館
- 東京都芝丸山古墳出土管玉 他 港区立みなと科学館プラネタリウム映像「港区の時刻(とき)」 港区
- 愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 『2020年度「さなる式 歴史I」塾用問題集』 学書
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石器 他 『2020年度中学(中1対象)歴史I』 河合塾
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 『小学ウインパス社会6年』 文理
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 常設展示におけるパネル展示「土偶の変遷」 釈迦堂遺跡博物館
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 中1記述力UPドリル 社会 VOL.1』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 中1記述力UPドリル 社会』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 中2記述力UPドリル 社会 VOL.1』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 中2 5教科パーフェクト事典/5月号』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 中2 5教科パーフェクト事典プラス/4月号』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 定期テスト暗記BOOK』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 定期テスト楽暗記アプリ(デジタル教材)』 ベネッセコーポレーション
- 神奈川県月見野遺跡調査風景写真 平成30年度考古学講座「月見野遺跡群発掘調査から50年」記録集『考古学論叢神奈河』26・27集 神奈川県考古学会
- 千葉県法皇塚古墳石室写真 谷口榮『柴又八幡神社古墳』(シリーズ「遺跡を学ぶ」143) 新泉社
- 神奈川県月見野遺跡調査風景写真 月見野遺跡講座(講師:矢島國雄先生)用チラシ 大和市つきみ野学習センター
- ウィリアム・ガウランド撮影 二室塚古墳石室内部写真 寺澤 薫 他『新版八尾市史 考古編2—考古学からみた八尾の歴史—』 八尾市
- 武蔵国分寺郡名文字瓦「榛」他 月刊『書道界』3月号 藤樹社
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2020年度I期(高2生対象) 高2日本史』 河合塾
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 『2020年度前期(高3・高卒生対象) 日本史写真資料集』 河合塾
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 他 「河合塾マナビス(高校生対象) 日本史写真資料集」 河合塾
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 入試によく出る基礎 社会』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 進研ゼミ 中高一貫講座 中1Challenge 英数国理社/8月号』 ベネッセコーポレーション
- 群馬県岩宿遺跡出土石斧 『大学入試シリーズ 関西大学(法学部・文学部・商学部・政策創造学部・総合情報学部一学部個別日程)』 教学社
- 岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形 『2020年度基礎シリーズ(高卒生対象)「日本史B(共通テスト対応)」』 河合塾
- 神奈川県二ツ池遺跡出土壺形土器 他 『I期ゼミテキスト 中1社会』(塾用問題集、テスト含む) 学書
- 東京都利島大石山遺跡出土石皿・すり石 『2020年度基礎シリーズ(高卒生対象)「日本史B(共通テスト対応)」』 河合塾
- 静岡県登呂遺跡出土田下駄 「河合塾 基本解説映像 日本史」 河合塾
- 岩手県雨滝遺跡出土石匙 他 『第1回学力テスト(日本史B)』 代々木ゼミナール
- 神奈川県夏島貝塚出土尖底土器 『日本の農と食を学ぶ』 一般社団法人農文協
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2020年度 中1定期テスト暗記BOOK 特別号』 ベネッセコーポレーション
- 京都府深草遺跡出土石包丁 『2020年度第1回 全統記述模試問題 地理歴史・公民(日本史)』 河合塾
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『2020年度第1回全統共通テスト模試問題 地理歴史「日本史B」』 河合塾
- 栃木県出流原遺跡出土管玉 藤岡歴史館春季企画展 展示解説リーフレット 藤岡歴史館
- 神奈川県月見野遺跡発掘調査風景 他 常設展示パネル 大和市つる舞の里歴史資料館
- 大阪府塚原古墳群の石室で巻尺を持つ車夫 他 企画展「群集墳と横穴石室—古墳時代後期の三島」 展示図録・パネル 高槻市立今成塚古代歴史館
- 群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2020年度 考える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入試授業テキスト/8月号/共通』 ベネッセコーポレーション

③時田昌瑞ことわざコレクション

- I かるた-1-1 犬棒かるた 他 「ワーズハウスへようこそ」 日本テレビ
- 版画 外道十二支 一勇斎国芳 他 時田昌瑞 角川ソフィア文庫『絵で楽しむ江戸のことわざ』 KADOKAWA

5 図書

(1) 蔵書数 2020年3月31日現在

図書	全所蔵冊数	(冊)	125,541
	和	(冊)	94,120
	洋	(冊)	1,244
	製本雑誌	(冊)	30,177
雑誌	全所蔵冊数	(タイトル)	3,004
	和	(タイトル)	2,951
	洋	(タイトル)	53

②雑誌継続タイトル数

総受入種類数	(タイトル)	318
雑誌受入種類数	和	(タイトル) 317
	洋	(タイトル) 1

※2015年度統計より、図書館蔵書システムからの出力による数値を使用。

(2) 購入・寄贈数 2020年3月31日現在

①図書受入数

総受入冊数	(冊)	1,709	
図書受入冊数 *製本雑誌を含む	購入	和	(冊) 61
		洋	(冊) 1
	寄贈	和	(冊) 1,643
		洋	(冊) 4

V 統計・一覧・資料

1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 休館日 8月10日～16日/12月26日～1月7日/8月18日電気点検休館

臨時休館日

- ・9月9日、10月12日～10月13日(大型台風接近)
- ・2020年2月20・21日(照明具交換のため常設展示室を休室)
- ・2020年3月2日～3月31日(新型コロナウイルス感染防止対策)

イ 開館時間 10時～17時

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	30	31	30	31	23	29	29	30	25	24	29	1	312

エ 月別入館・利用者数 ※3月1日の入館者数は2月29日分にカウント

博物館	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	4,346	7,261	5,806	7,788	7,969	7,163	6,389	6,890	4,246	3,759	3,501	0	65,118
特別展	1,774	2,715	1,888	7,252	9,839	4,912	4,957	4,180	1,843	700	1,795	0	41,855
図書室	298	512	640	529	292	457	735	668	552	237	137	51	5,108
教室等利用	307	300	277	364	197	327	284	261	241	300	226	0	3,084
計	6,725	10,788	8,611	15,933	18,297	12,859	12,365	11,999	6,882	4,996	5,659	51	115,165

《参考》年度別入館・利用者数

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2004～2019
常設展示室	42,333	42,632	43,331	63,036	64,379	65,118	735,684
特別展示室	16,937	18,755	23,409	29,145	18,649	41,855	317,240
図書室	5,476	5,321	5,316	4,851	5,730	5,108	82,210
教室等利用	3,203	3,334	3,426	3,160	3,780	3,084	30,935
計	67,949	70,042	75,482	100,192	92,538	115,165	1,166,069

②特別展入場者数

名称	期間	開館日数	入場者数
見えているのに見えていない！立体錯視の最前線	7月13日～9月8日	50日間	22,003名

③主催・共催展・その他の展覧会入場者数

名称	期間	開館日数	入場者数
新収蔵・収蔵資料展 2019	3月23日～4月21日	30日間	2,605名
素晴らしき古墳との出会い—大塚初重スケッチ絵画展	5月11日～6月16日	37日間	4,603名
今、甦る！琵琶湖に君臨した王 雪野山古墳展	10月4日～10月27日	22日間	4,957名
植村直己さんがイノチかけてつかんだコトバ	11月7日～12月17日	41日間	6,023名
神田発信！大学スポーツの軌跡	2020年1月24日～3月1日	38日間	2,495名

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、2020年3月2日～3月31日は臨時休館

(2) 団体見学

①月別集計一覧

ア 学校団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	11	22	18	12	11	10	23	24	27	19	9	0	186
人数	151	345	434	259	208	424	895	492	562	337	56	0	4,163

イ 一般団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	3	7	10	11	2	10	17	12	10	8	1	0	91
人数	115	289	182	341	22	241	384	202	127	141	20	0	2,064

4月

大阪学芸大学附属天王寺中学校・高等学校天王寺校舎 東京同窓会、盛岡市立厨川中学校、坂のある街を歩く会、鳥取県若桜町立若桜学園中学校、史跡めぐりクラブ、神奈川県立大和南高等学校、北海道伊達市立伊達中学校、神戸市立神陵台中学校 3年生、千葉県立稲毛高等学校 3年生、神奈川県立上溝高等学校 2学年、明治大学法学部 山田道郎ゼミ、東京都立鷺宮高等学校 2年生、茨城県立水戸第二高等学校 3年1組、神奈川県立平塚中等教育学校

5月

西東京市郷土文化会、仙台市立茂庭台中学校 2年生、高津歴史散歩の会、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校、神奈川県立川和高等学校、福井県敦賀市立鹿角中学校 1年生、森木会、岐阜県中津川市立福岡中学校、北海道滝川市立明苑中学校、クラブツーリズム「東京の新発見旅へ千代田区編」、ヒューマンアカデミー、敦賀市立栗野中学校、青山製図専門学校、岐阜県羽島市立羽島中学校 3年生、仙台市立蒲町中学校、北秋田市立合川中学校、和歌山県みなべ町立南部中学校、神田女学園中学校、岐阜県海津市立城南中学校、横浜市立上永谷中学校 2年生、彩の国いきがい大学春日部学園 19期校友会、国分寺市立第二中学校、埼玉県立羽生第一高等学校 2年生、人間環境活性化研究会、茨城県立波崎高等学校 2年生、安生二十日会、愛知県刈谷市立朝日中学校 3年生、文京学院大学、明治大学附属明治高等学校

6月

クラブツーリズム「東京の新発見旅へ千代田区編」、茨城県立八千代高等学校、新宿区立四谷中学校、ウォーキングの会、成田市立公津の杜中学校、平塚市立江陽中学校、エンデラン大学交換留学生、常葉大学附属菊川高等学校 1・2年生、所沢市民大学派生サークル「江戸文化を訪ねる」、栃木県立さくら清修高等学校 2年生、東大和文学散歩の会、ACAP 友の会、高崎市立高松中学校 2年生、東京学館新潟高等学校、共愛学園高等学校 2年生、世田谷区シニア 32会、豊田市立高橋中学校 3年5組2班、柏史会、わくわくサークル、埼玉県立川口高等学校 PTA、鬼平ツアー、名古屋市立本城中学校、大宮開成高等学校 2年生、栃木県立今市高等学校 1年生、川崎市立南河原中学校、東京都立美原高等学校 2年生、千葉商科大学商経学部、千代田区立九段中等教育学校 1年生

7月

目黒区立第八中学校、埼玉県立南稜高等学校 PTA、川崎市立幸高等学校 2年生、世田谷写真クラブ、志学館中等部後援会、中国社会科学院、宇都宮女子高等学校 PTA、白幡八幡神社、東京都立雪谷高等学校、生き生き倶楽部、朝日会、東京都立三田高等学校 2年生、東京都立昭和高等学校 2年生、KG 高等学院稲田堤キャンパス、東京都立日比谷高等学校、Law in Japan Program サンパウロ大学、吉祥女子中学・高等学校、千葉県安房西高等学校、東京都立昭和高等学校 PTA、千葉市小中教職員有志、茨城県立境高等学校 PTA、桜の聖母学院高等学校新聞部、中央法律専門学校

8月

狭山市立堀兼中学校, NPO 法人キッズドア, 杉戸町民大学 第Ⅲ期 ワクワクグループ, 千葉県立津田沼高等学校, 東京都葛飾区立青戸中学校, 共立女子第二高等学校 文芸同好会, 法政大学第二高等学校 1年生, 児童クラブ山手ジュニア, 豊島岡女子学園文芸部, 青森県むつ市立田名部中学校 3年生, 東京都立豊島高等学校・社会科同好会, 山西省大同市学生社会見学A, 山西省大同市学生社会見学B

9月

高崎健康福祉大学高崎高等学校 1年生, 東京韓国学校, 府中市立府中第三中学校, 明大会, よみうりカルチャー川口 昼飯前にひとつ旅コース, 明治大学技術士会, 栃木県立鹿沼高等学校 PTA, 大人の平日及休日, いきがい大学蔵史跡クラブ, 会津美里町立本郷中学校, お散歩会, 国分寺市立第五中学校, クラブツーリズム「東京の新発見旅へ千代田区編」, すみだステップハウスおおぞら ひだまり, 小金井市立南中学校 1年生, 東京都立神津高等学校 1年生, 下関市立大学 柳純ゼミ, 大宮開成中学校 3年生, 東栄会, 江戸川女子中学校

10月

群馬県立太田東高等学校 1年生, 明治学院中学校, 長野県上田染谷丘高等学校 1年生, クラブツーリズム「東京の新発見旅へ千代田区編」, 千葉県立東金高等学校 1年生, 保護司会裾野支部, 板橋区立桜川中学校, 新潟県立新発田高等学校, 清瀬郷土研究会, 東京都立本所高等学校, 茨城県立取手松陽高等学校 1年生, シルバー葵会, 千葉県生涯大学OB会, 鎌倉女子大学高等部 1年生, 東京電機大学高等学校, 悠遊会, 高崎市立高崎経済大学附属高等学校 1年生, 茨城県立水戸第二高等学校 第1学年, 群馬県立高崎東高等学校 1年生, 千葉県立検見川高等学校PTA, 長野県野沢北高等学校 1年生, 茨城県立明野高等学校PTA, さいたま市人権擁護委員協議会北部部会, 青森県立三本木高等学校附属中学校 2年生, なないち会, 茨城県立中央高等学校 1年生, 東京学館新潟高等学校 2年生, 星槎国際高等学校 柏キャンパス, 群馬県立渋川高等学校 1年生, 八千代市東町会あるこう会, 川口市立高等学校 1年生, すみだステップハウスおおぞら ひだまり, 五鉄会, 中京学院大学附属中京高等学校 2年生, 四季の会, 錦城学園高等学校, 松戸創年の会 F班, 千葉市ことぶき大学OB会「FKB12」, 茨城県立水海道第一高等学校 1年生, 光ヶ丘ウォーキングクラブ

11月

新潟県立佐渡高等学校 2年生, 千葉県立国府台高等学校 1年生, 最上町立最上中学校, 千葉県立安房高等学校 1年生, 水戸女子高等学校, 東京都立八丈高等学校, 杉並区立高南中学校, 桐朋女子中学校, 埼玉県立越谷南高等学校, 茨城県立神栖高等学校 2年生, 北斗モダンボーイズ, 鳥取城北高等学校 2年生, 大田原市立大田原中学校 1年生, 読売文化センターOBの会, 早稲田EDU日本語学校, 群馬県立桐生高等学校 1年生, 木曜会, 東京・小金井市 いずみの会, さいたま市立美園南中学校, 龍ヶ崎市立中根台中学校, 有限会社田園ビルメンテナンス, 東天紅愛好会, NPO 法人 海風 47, 大宮中学校 B級グルメの会, 千葉英和高等学校 2年生, 早稲田大学法学部 水島ゼミ, 八王子市絹ヶ丘 歩いてみる会, 足立区立東綾瀬中学校 1年生, 中野区立第四中学校, いきがい大学 32期, 埼玉県立桶川高等学校 1年生, 歩け歩きの会, 練馬区立大泉西中学校, 小糸旅行会, 練馬区立貫井中学校

12月

茨城県立石岡第一高等学校 1年生, 東十条笑年クラブ, 日本大学経済学部 川出真清ゼミナール, 白鷗大学茂木ゼミナール, 富山県立桜井高等学校 2年生, 秋田県立横手清陵学院中学校, 校友会史跡クラブ, 埼玉県立浦和東高等学校 1年生, 池田学園池田高等学校, 群馬県立大間々高等学校, 高崎市立新町中学校, 楽歩会, 関西高等学校普通科 2年, 鹿児島県立武岡台高等学校, 茨城県立多賀高等学校, 東京都立武蔵丘高等学校 1年生, 東京純心女子高等学校 2年生, エイコス 200クラブ, 群馬県立高崎商業高等学校, 法政大学日本近世史ゼミ, 山口県立宇部中央高等学校, Law in Japan Program 吉林大学, 桐生市立商業高等学校 1年生, シニアユニバーシティ史跡めぐりクラブ校友会, ニューカレッジ広場, 葛飾区立高砂中学校, いちご会, 足立区立江北桜中学校, 杉並区立済美養護学校 中学部 2年, 東京経済大学 現代法学部, 埼玉県立久喜高等学校 1年生, 香蘭女学校中等科 2年生, NPO 法人富士見教育交流センター, 日本セカンドライフ協会, 日本ウェルネス保育専門学校, 三朝会(企業OB会), 立教新座中学校

2020年

1月

東華大学, 鎌倉学園中学校・高等学校 考古学研究クラブ, 栃木県佐野市立出流原小学校, 木更津市立鎌足公民館, 成城学園中学校高等学校, 法政大学高等学校, 法政大学第二高等学校, 古河市立古河第二中学校 第二学年, 武蔵村山市立小中一貫校大南学園第四中学校, 社会福祉法人 原町成年寮 フォレスト, 越谷市立中央中学校 2年生, 所沢市民大学地域史グループ, 八千代市ふれあい大学 OB会, 足立区立第十二中学校, 東京散策会, 15会, 世田谷区立砧南中学校, 葛飾区立小松中学校, 新宿区立西早稲田中学校, 社会福祉法人いたるセンター 阿佐谷福祉工房, 館山市立豊房小学校, 東村山市立第二中学校 2年生, 越谷市立北陽中学校, 中野区立北中野中学校, 葛飾区立亀有中学校 1年生, 調布市立第四中学校 2年生, 中野区すこやか福祉センター, 品川区立荏原平塚学園中学校 1年生

2月

広島市立井口中学校 2年2組5班, 世田谷区立千歳中学校 E組2班, 上尾市立上平中学校, 台東区立駒形中学校, 西東京市立田無第三中学校, 豊島区立巣鴨北中学校, 友遊 歩こう会, 大田区立雪谷中学校 1年生, 大田区立大森第三中学校 2年生, 西東京市立田無第一中学校 2年生

3月

該当なし

(3) 視察・研修受入

①受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	1	1	1	1	2	—	—	—	—	6
人数	—	—	—	2	33	24	2	12	—	—	—	—	73

②団体名一覧

東京都立大泉高等学校附属中学校職場体験（7月9日～11日）、和洋女子大学見学実習（8月8日）、南山大学見学実習（9月11日）、東京都立桜修館中等教育学校職場体験（10月24日～25日）、東京都立白鷗高等学校附属中学校職場体験（11月12日～14日）、三菱人権啓発連絡会（11月26日）

(4) 図書閲覧サービス

①図書室開室時間

月～土曜日 10:00～16:30

博物館の夏季・冬季休館日及び夏季休暇期間中の土曜、大学の定める休日（11/1, 1/17）を除く。

②閲覧者数 ※2020年3月は臨時閉館中のため願いによる個別の閲覧に対応した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生大学院生	161	368	417	328	142	268	512	451	370	107	38	40	3202
明大教職員	11	13	17	23	10	10	7	9	9	4	8	4	125
友の会	26	29	37	45	32	29	33	14	15	23	18	0	301
リライガミー会員	8	8	7	14	6	12	8	6	7	6	3	0	85
聴講生	2	0	6	1	1	6	10	5	4	6	0	0	41
校友	19	14	16	20	16	15	16	12	24	12	8	0	172
他大学学生	24	43	83	44	43	69	93	125	83	32	25	0	664
一般	36	25	51	44	24	34	41	39	30	41	24	0	389
明大その他	11	12	6	10	18	14	15	7	10	6	13	7	129
合計	298	512	640	529	292	457	735	668	552	237	137	51	5108
開室日数	24	23	25	27	17	21	25	24	21	19	21	0	247
1日平均（人）	12.4	22.3	25.6	19.6	17.2	21.8	29.4	27.8	26.3	12.5	6.5	—	20.5

2 組織・構成

(1) 博物館スタッフ

①館長・副館長

任期：2018年4月1日～2020年3月31日

役職	氏名	所属	専門
館長	井上 崇通	商学部教授	マーケティング論・消費者行動論
副館長	落合 弘樹	文学部教授	日本近代史（幕末維新史）

②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会連携部長	菊池 亮一		
博物館事務長	伴 瀬 利江		
庶務担当	武井 大貴※1		
学芸員	外山 徹	商品・刑事部門	博物館学／地域文化論
学芸員	島田 和高	考古部門	旧石器時代

学芸員	日比 佳代子※2	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那 敬三	考古部門	弥生・古墳時代

※1 大学史資料センターと兼務 ※2 2019年度は育児休業取得

③非常勤職員

	氏名	担当
派遣職員	岡本 依子	広報・庶務担当
短期嘱託職員	織田 潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	久保田 惟子	庶務（図書）部門担当
短期嘱託職員	林田 真由子	商品部門担当
短期嘱託職員	勝見 知世	刑事部門担当
短期嘱託職員	海沼 真澄	考古部門担当
短期嘱託職員	川嶋 陶子	考古部門担当
短期嘱託職員	杉本 茉織	アーカイブ管理担当

(2) 博物館運営委員会

①運営委員会

任期：2019年4月1日～2021年3月31日

委員長	井上崇通	館長／商学部教授
副委員長	落合弘樹	副館長／文学部教授
	小林史明	法学部専任講師
	菊池一夫	商学部教授
	山内健治	政治経済学部教授
	駒見和夫	文学部教授
	野尻泰弘	文学部准教授
	若狭徹	文学部准教授
	本多貴之	理工学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	須田努	情報コミュニケーション学部教授
	菊池亮一	学術・社会連携部長
	外山徹	博物館学芸員
	島田和高	博物館学芸員
	忽那敬三	博物館学芸員

②資料評価分科会

任期：2019年6月20日～2021年3月31日

座長	野尻泰弘	文学部准教授
	菊池一夫	商学部教授
	若狭徹	文学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授

(3) 研究調査員

任期：2019年4月1日～2020年3月31日

高橋昭夫	商学部教授 (商品学)
福田康典	商学部教授 (市場調査論)
上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
劉 亜水	商学部助教 (マーケティング企画)
牛米 努	文学部兼任講師 税務大学校租税史料室
金子 智	株式会社乃村工藝社
山路直充	研究クラスター・日本古代学研究所研究分担者 市立市川考古博物館学芸員

(4) 作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携

「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

座長	高橋昭夫	商学部教授 (商品学)
	菊池一夫	商学部教授 (商業経営論)
	福田康典	商学部教授 (市場調査論)
	上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
	劉 亜水	商学部助教 (マーケティング企画)
	外山 徹	博物館学芸員

(5) 明治大学博物館友の会 2019 年度役員

相談役	井上崇通	落合弘樹	
顧問	大塚初重	熊野正也	杉原重夫
会長	鈴木弘		
副会長	野口 淳		
理事	巖 俊夫 (総務)	橋本秀夫 (行事)	村井孝行 (会計)
	新井正子 (総務)	林 信雄 (広報)	宮城 正 (総務)
運営委員 (総務)	菅田路子		
〃 (会計)	古沢芳枝		
〃 (行事)	松村祐安	桐生邦子	
〃 (広報)	望月桂一郎		
〃 (図書室管理 員副代表)	新井正子		
〃 (展示解説 員副代表)	渡辺 やす子		
図書室管理 員代表	木戸孝義		
展示解説員 代表	林 信雄		
監事	支倉紀代美	松本慶三	
分科会	古文書を読む会		高橋幸子
	平成内藤家文書研究会		山本康夫
	工芸の会		平井孝雄
	旧石器・縄文文化研究会		杉山 昭
	弥生文化研究会		岡本直和
	古文書の基礎を学ぶ会		平井孝雄
	東アジアの中の古代日本研究会		山本廣一
	前方後円墳研究会		磯辺隆信
	「倭国から大和」を学ぶ会		村井孝行
	古代東北アジアと日本研究会		遠藤典夫
飛鳥・藤原を学ぶ会		荒木 茂	

(6) 各種会議開催日

①博物館運営委員会

第1回 6月20日 (木)

1. 審議事項

(1) 2020年度教育・研究に関する年度計画書について

(2) 資料評価分科会委員の選出について

2. 報告事項

(1) 2019年度特別展の開催について

第2回 10月29日 (火)

1. 審議事項

(1) 2020年度博物館予算について

(2) 博物館アルバイト労務時間単価の改正について

2. 報告事項
 (1) 2019年度特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」開催実績について
 第3回 2020年3月24日（火）

1. 報告事項

- (1) 2019年度事業報告
 (2) 2020年度事業計画

2. 審議事項

- (1) 2020年度研究調査員の委嘱について

- ③「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会
 <第1回>4月19日 <第2回>6月28日
 <第3回>9月20日 <第4回>11月8日
 <第5回>2020年1月10日

④博物館・友の会連絡会議

- <第1回>5月24日 <第2回>9月20日
 <第3回>11月22日 <第4回>2020年2月21日

②博物館運営委員会資料評価分科会

上半期 7月19日（金）

下半期 12月17日（火）

3 予算・決算

(1) 2019年度事業費予算・決算

予算

科目	目的	博物館費	基金事業費	特定課題推進費			合計	
				特別展	大学博物館 交流事業	伝統工芸 マーケティング		考古多視点的 アーカイブ
兼務職員人件費		870,000	0	0	0	0	870,000	
福利費		14,000	0	0	0	0	14,000	
修繕費		50,000	0	0	0	0	50,000	
旅費交通費		921,000	0	10,000	201,000	469,000	1,601,000	
業務委託費		1,320,000	0	2,023,000	0	33,000	4,451,000	
保険料		160,000	0	0	0	0	160,000	
準備品		600,000	0	0	0	200,000	800,000	
その他の消耗品費		1,530,000	0	194,000	11,000	0	1,785,000	
印刷製本費		1,600,000	0	1,281,000	60,000	0	2,941,000	
郵便費		10,000	0	0	0	0	10,000	
運搬費		40,000	0	0	400,000	0	440,000	
広告費		120,000	0	300,000	0	0	420,000	
支払手数料		97,000	0	410,000	40,000	30,000	577,000	
賃借料		0	0	0	0	0	0	
会合費		96,000	0	0	0	0	96,000	
公租公課		34,000	0	0	0	0	34,000	
教) 雑費		0	0	0	0	0	0	
教育研究用機器備品費		4,465,000	0	1,548,000	0	0	6,013,000	
図書費		100,000	0	0	0	0	100,000	
合計		12,027,000	0	5,766,000	712,000	532,000	1,325,000	20,362,000
前年度予算額		12,027,000	0	14,500,000	712,000	532,000	1,325,000	29,096,000
増・減(▲)		0	0	▲ 8,734,000	0	0	0	▲ 8,734,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

決算

科目	目的 博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
			特別展	大学博物館 交流事業	伝統工芸 マーケティング	考古多視点的 アーカイブ	
兼務職員人件費	139,200	0	0	0	0	0	139,200
福利費	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	1,421,640	0	0	0	0	0	1,421,640
旅費交通費	329,396	0	2,232	123,740	191,920	0	647,288
業務委託費	1,281,154	0	1,803,850	0	18,311	298,080	3,401,395
保険料	139,360	0	0	3,680	0	0	143,040
準備品	328,347	0	384,480	0	0	0	712,827
その他の消耗品費	2,698,210	0	431,715	0	0	0	3,129,925
印刷製本費	2,327,318	0	1,084,644	9,828	0	0	3,421,790
通信費	86,328	0	0	0	0	0	86,328
郵便費	27,778	0	0	0	0	0	27,778
運搬費	77,570	0	28,399	338,140	0	0	444,109
広告費	85,000	0	295,162	0	0	0	380,162
支払手数料	169,062	0	60,000	30,000	30,000	0	289,062
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
会合費	51,945	0	39,200	0	0	0	91,145
公租公課	30,400	0	0	0	0	0	30,400
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	0
教育研究用機器備品費	1,610,690	0	874,800	0	0	1,040,904	3,526,394
図書費	0	0	0	0	0	0	0
合計	10,803,398	0	5,004,482	505,388	240,231	1,338,984	17,892,483
前年度決算額	11,491,562	0	13,754,189	627,791	510,164	1,096,200	27,479,906
増・減 (▲)	▲ 688,164	0	▲ 8,749,707	▲ 122,403	▲ 269,933	242,784	▲ 9,587,423

※予算額を超える執行は年度途中に予算振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

(2) 2019 年度収入

科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	1,141,360
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	37,220
撮影・掲載料	200,000	579,940
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	0
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	688,850
その他	10,000	175,582
合計	1,280,000	2,622,952
前年度予算決算額	1,280,000	4,311,277
増・減 (▲)	0	▲ 1,688,325

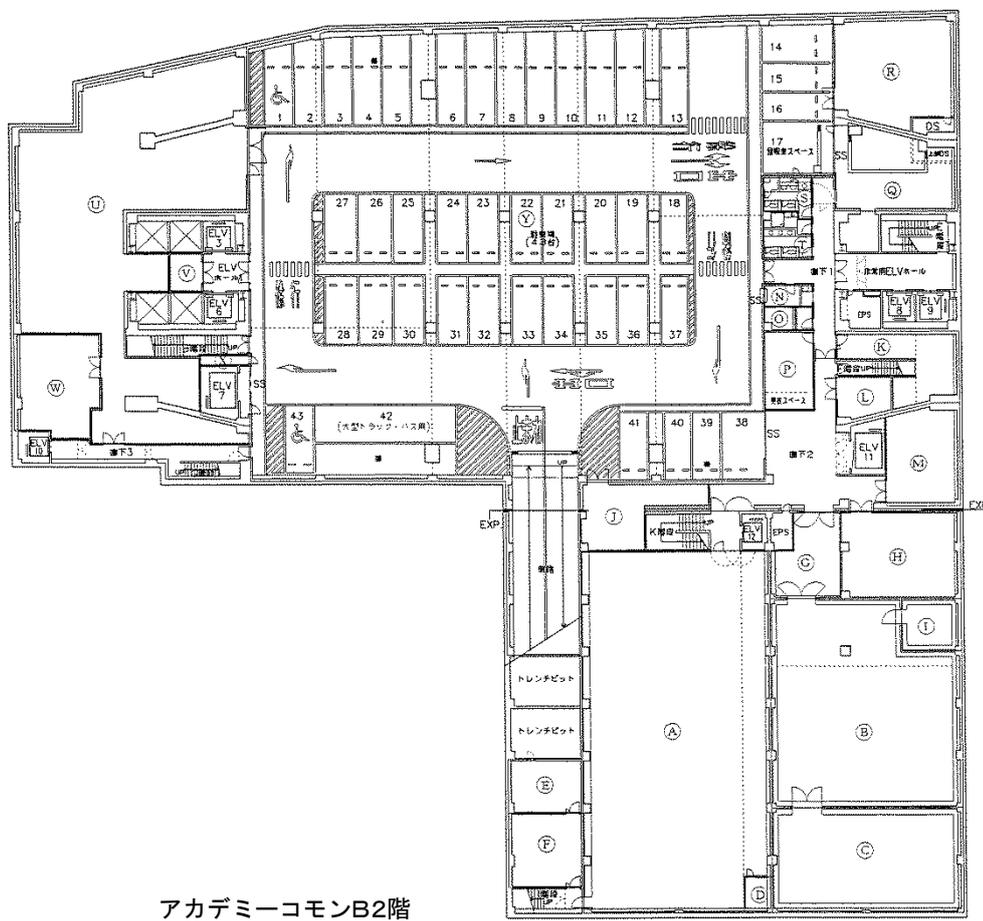
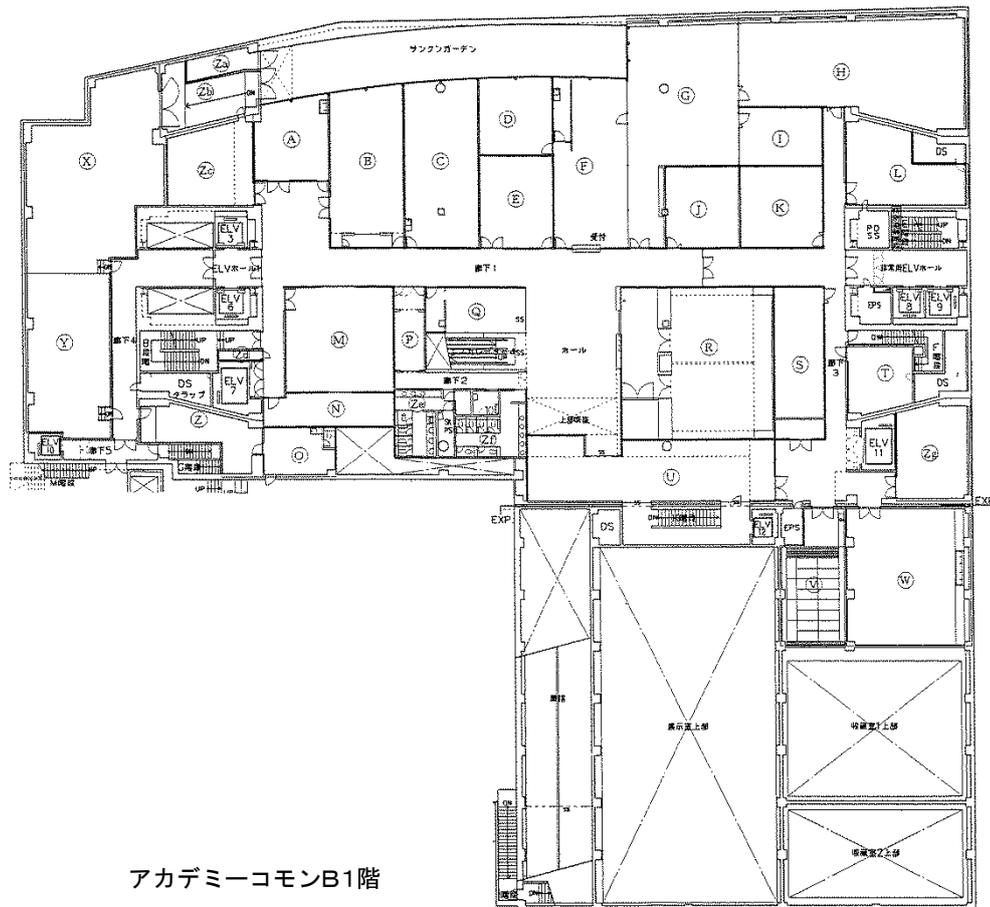
4 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

(単位 m²)

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86 m ²	243.90 m ²
	事務室	B1	F	94.06 m ²	
	会議室	B1	J	45.12 m ²	
	倉庫	B1	L	61.86 m ²	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04 m ²	523.22 m ²
	書庫	B1	H	176.03 m ²	
	閲覧室	B1	I	35.95 m ²	
	博物館教室	B1	B	87.94 m ²	
	体験学習室	B1	A	44.31 m ²	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95 m ²	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19 m ²	785.73 m ²
	大学史展示室	B1	U	115.20 m ²	
	特別展示室	B1	R	173.34 m ²	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03 m ²	332.76 m ²
	作業室 1	B1	V	60.80 m ²	
	作業室 2	B1	W	129.70 m ²	
	展示準備室	B1	K	50.23 m ²	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90 m ²	649.11 m ²
	一時保管室	B2	H	77.35 m ²	
	収蔵室 1	B2	B	271.46 m ²	
	収蔵室 2	B2	C	147.37 m ²	
	特別収蔵室	B2	I	23.28 m ²	
	写真保管室 1	B1	S	56.68 m ²	
	写真保管室 2	B1	T	34.07 m ²	
合 計					2,534.72 m ²

(2) 施設見取り図



5 規程

明治大学博物館規程

1991年10月31日制定
1991年規程第2号

(趣旨)

第1条 この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
- (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (8) 生涯教育の振興及び学習支援
- (9) 分館の設置及び運営
- (10) その他必要と認められる事業

(館長)

第4条 博物館に、館長1名を置く。

2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。

3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。

4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 館長は、再任されることができる。

6 館長は、学部、大学院、附属学校又は附属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第5条 博物館に、副館長1名を置く。

2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。

4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第6条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並

びに学芸員及び職員若干名を置く。

3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第6条の2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。

3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館運営委員会)

第7条 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項
- (2) 博物館の管理・運営に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) その他委員会が必要と認めた事項

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 館長
- (2) 副館長
- (3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名
- (4) 第6条第2項に規定する学芸員
- (5) 学術・社会連携部長

3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。

8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。

9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第7条の2 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第8条 この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

附 則 (1991年規程第2号)

(施行期日)

1 この規程は、1991年（平成3年）10月31日から施行する。

（明治大学刑事博物館規程等の廃止）

2 次に掲げる規程は、廃止する。

- (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和56年規程第72号）
- (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和56年規程第73号）
- (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和56年規程第74号）

（通達第669号）

附則（1996年度規程第16号）

この規程は、1997年（平成9年）4月1日から施行する。
（通達第893号）（注 博物館協議会の設置に伴う改正）

附則（2001年度規程第14号）

この規程は、2002年（平成14年）4月1日から施行する。
（通達第1143号）（注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正）

附則（2003年度規程第8号）

（施行期日）

- 1 この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。
（改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例）
- 2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年（平成16年）3月31日をもって満了するものとする。

（通達第1232号）（注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正）

附則（2006年度規程第13号）

この規程は、2006年（平成18年）11月16日から施行する。
（通達第1490号）（注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正）

附則（2007年度規程第21号）

この規程は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。
（通達第1562号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2008年度規程第4号）

この規程は、2008年（平成20年）5月20日から施行する。
（通達第1689号）（注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正）

附則（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。
（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2017年度規程第3号）

（施行期日）

- 1 この規程は、2017年（平成29年）4月20日から施行する。
（委員の任期の特例）
- 2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年（平成31年）3月31日までとする。
（通達第2462号）（注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正）

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定

1994年度例規第7号

（趣旨）

第1条 この要綱は、明治大学博物館規程（1991年規程第2号）第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。
- (2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

（申請）

第3条 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

（許可）

第4条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができると明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

（撮影・掲載を許可しない場合）

第5条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第6条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

2 料金は、資料等1点当たりの金額とする。

3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

(料金の免除)

第7条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

(1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。

(2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。

(3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。

(4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。

(5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。

(6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。

(7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

第8条 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

第9条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

第10条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

第11条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

第12条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮

影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

第13条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附則（1994年度例規第7号）

この要綱は、1994年（平成6年）9月27日から施行する。

附則（1997年度例規第7号）

この要綱は、1997年（平成9年）12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。（通達第922号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正）

附則（2004年度例規第7号）

この要綱は、2004年（平成16年）10月1日から施行する。（通達第1312号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正）

附則（2007年度例規第9号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。（通達第1563号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2009年度例規第9号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1808号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附則（2015年度例規第13号）

この要綱は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。（通達第2363号）（注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正）

附則

この要綱は、2017年（平成29年）4月26日から施行する。（通達第2466号）（注 博物館協議会が博物館運営委員会に改組されたことに伴う改正）

別表第1（第6条関係）

撮影・掲載料金（消費税は含まない。）

写 真・動 画	10,000
---------	--------

(単位：円)

別表第2（第8条関係）

熟覧料金（消費税は含まない。）

熟 覧	5,000
-----	-------

(単位：円)

別表第3（第8条関係）

貸出掲載・転載料金（消費税は含まない。）

1 写真フィルム原版

サイズ	4×5 (インチ)	6×8 (cm) 6×6 (cm)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

(単位：円)

2 デジタル写真

カラー・ モノクローム	4,000
----------------	-------

(単位：円)

3 動画及びデジタルコンテンツ

動画及びデジタルコンテンツ	20,000
---------------	--------

(単位：円)

明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱

2005 年 10 月 4 日制定
2005 年度例規第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程（昭和 46 年規程第 38 号）第 1 条第 3 項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ（以下「特別展示室」という。）の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第 2 条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。
(利用範囲)

第 3 条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等（以下「特別展等」という。）に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第 5 条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第 5 条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第 4 条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前 10 時から午後 4 時 30 分までとする。
- 3 利用期間は、原則として 2 週間を限度とする。ただし、前条第 1 号及び第 2 号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

第 5 条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の 6 週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第 6 条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の 3 週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不相当と認められる場合

2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第 7 条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の 2 週間前までに管理責任者に申し出て、交付さ

れた利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第 8 条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認められたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第 9 条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第 10 条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2 週間前までに利用料を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第 3 条第 1 号、第 2 号及び第 3 号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

3 第 3 条第 4 号及び第 5 号に該当する場合の利用料は、1 日につき 2,700 円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

4 第 3 条第 6 号に該当する場合の利用料は、1 日につき 5,400 円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

5 いったん納入された利用料は、第 7 条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第 8 条第 1 項第 1 号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。
(権利の譲渡及び転貸の禁止)

第 11 条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第 12 条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。

3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第 13 条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

第 14 条 この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

附 則 (2005 年度例規第 8 号)

この要綱は、2005 年（平成 17 年）10 月 5 日から施行する。
(通達第 1397 号)

附 則 (2007 年度例規第 9 号)

この要綱は、2007 年（平成 19 年）9 月 10 日から施行する。
(通達第 1563 号) (注 事務機構改革の実施による部署名

称等の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則

この要綱、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

(通達第2466号)(注 博物館協議会が博物館運営委員会に改組されたことに伴う改正)

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995年5月8日制定

1995年度規程第2号

(設定)

第1条 明治大学(以下「本大学」という。)に、本大学文学部史学地理学科(考古学専攻)の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金5,000万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金(以下「基金」という。)を設定する。

(目的)

第2条 基金は、考古学及び明治大学博物館(以下「博物館」という。)にかかわる調査・研究(以下単に「調査・研究」という。)を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

(資産)

第3条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

- (1) 第1条の指定寄付金
- (2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
- (3) 第7条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

(基金の運用等)

第4条 基金の資産は、資金の運用に関する規則(2009年度規程第20号)に基づいて運用する。

- 2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。
- 3 基金は、第6条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

(事業)

第5条 基金による事業は、次のとおりとする。

- (1) 調査・研究に対する助成
 - (2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
 - (3) 前2号のほか、第2条の目的達成に必要な事業
- 2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。(基金運営委員会)

第6条 基金の運用等及び前条第1項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

- 2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 明治大学博物館長 1名
 - (2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任(次号において「主任」という。) 1名

(3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名

(4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2名

(5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名

- 3 前項第3号及び第5号の委員は、委員長が委嘱する。
- 4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 第2項第3号及び第5号の委員は、再任されることができる。
- 6 運営委員会に、委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。
- 7 委員長に事故あるときは、第2項第2号の委員が、その職務を代行する。
- 8 委員長は、会務を総理する。
- 9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。(収支残額の処理)

第7条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

(事務)

第8条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

第10条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附 則 (1995年度規程第2号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1995年(平成7年)5月9日から施行する。(委員の任期の特例)
- 2 この規程の施行後、最初に任命される第6条第2項第3号及び第5号の委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、1997年(平成9年)3月31日までとする。(通達第806号)

附 則 (2003年度規程第35号)

この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。(通達第1282号)(注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正)

附 則 (2007年度規程第40号)

この規程は、2007年(平成19年)11月8日から施行する。(通達第1604号)(注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度規程第7号)

この規程は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。(通達第1807号)(注 事務機構第二次見直しによる部署

名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2010 年度規程第 6 号)

この規程は、2010 年 (平成 22 年) 5 月 26 日から施行し、改正後の規定は、同年 3 月 30 日から適用する。
(通達第 1911 号) (注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正)

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定
1993年4月 1日改訂
2006年4月 1日改訂
2010年4月 1日改訂
2014年4月 1日改訂

(名称)

第 1 条 本会は、明治大学博物館友の会という。

(事務所)

第 2 条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台 1-1 明治大学 (以下「大学」という) に所在する明治大学博物館 (以下「博物館」という) 内に置く。

(目的)

第 3 条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

(事業)

第 4 条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- ①講演会・研修会・見学会などの開催
- ②会報、ニュース、図書の発行
- ③会員による自主研究分科会活動
- ④博物館事業への協力活動
- ⑤その他目的達成に必要と認められた事業

(入会)

第 5 条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

(会員の特典)

第 6 条 会員には、次の特典がある。

- ①本会および博物館の行事などの情報提供
- ②大学並びに博物館主催行事への優待参加
- ③大学図書館の閲覧

(退会)

第 7 条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

- ①退会の申し出があった場合
- ②死亡した場合
- ③会員証記載の有効期限が過ぎた場合
- ④本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合

(役員)

第 8 条 本会に、次の役員を置く。

- ① 会 長 1 名
- ② 副 会 長 2 名以内
- ③ 理 事 5 名以内
- ④ 運営委員 若干名
- ⑤ 監 事 2 名以内

(役員を選出)

第 9 条 役員は、次のとおり選出するものとする。

- ①会長および監事は、総会で選出する。
- ②副会長および理事は、会長が任命する。
- ③総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
- ④上記②、③について、会報で報告する。
- ⑤監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員職務)

第 10 条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

- ①会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- ②副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
- ③理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
- ④運営委員は、理事と共に会務を行う。
- ⑤監事は、本会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。

(役員任期)

第 11 条 役員任期は、2 年とする。ただし、役員再任を妨げない。

2 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

第 12 条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

- 2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

(総会)

第 13 条 本会は、年 1 回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

第 14 条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

- ①総会に付議する重要な事項。
 - ②その他、本会の運営に関する重要な事項。
- なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

第 15 条 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

第 16 条 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

- ①一般会員 3,000 円
- ②家族会員 1,500 円 (同居の家族)
- ③学生 1,500 円
- ④賛助会員 (1 口) 10,000 円

(経費)

第17条 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

(付則)

1. 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
2. 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6 2019年度教育・研究に関する 長期・中期計画

1 理念・目的

グローバル化や情報化の進展にともなう多様な社会情勢に対応できる高度な適応力をもった人材の育成や、学びを基軸とした新たなコミュニティの形成など、大学に対する社会の要請が近年ますます高まるなかで、教育・研究の成果を広く還元し、社会の発展に寄与することは、大学の使命の重要な一面である。博物館は、大学全体の社会的発信力を高め、本学の発展に貢献するための重要なインフラとして本学の特色ある教育・研究の一翼を担う。そして、博物館独自の展示や生涯学習の多様な機会の提供などをとおして社会に貢献する拠点的な役割を果たす。

ミッション1：収蔵資料の保管、拡充および利活用の促進

約32万点に及ぶ国内有数規模の各種収蔵資料を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充

本学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、全学的なネットワークのもとで博物館として特色ある展示及び教育・研究事業を実現する。

ミッション3：社会連携の推進と情報発信

本学の教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会の提供、及び地域の関係機関との交流を推進する。また、情報通信技術の活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する役割の一翼を担う。

2 内部質保証

(1) 自己点検・評価

博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業を中心に、教員を中心に構成される博物館運営委員会における意見聴取をはじめ、教職員や学外の有識者等に対し幅広く評価を求める。また、各種アンケート調査や博物館友の会との対話をとおして、積極的に利用者の意見を聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

3 教育研究組織

博物館運営委員会は、博物館の運営方針の決定と執行に

責任を負う議決機関として、2017年度に旧博物館協議会から改組された。博物館に関連する専門分野の教員と学芸員を中心に構成され、議決や博物館への意見・提言にとどまらず、資史料整理・研究・展示などの共同事業や外部への広報支援などへ参画する実務的な側面をもつ組織とする。また、他大学よりも先行している本学の専任職員としての学芸員のあり方について、専門的で高度な業務を安定的に維持するための専門職化を求めていく。

(1) 博物館運営委員会

議決機関として改組された運営委員会について、課題解決を目的としたワーキンググループ等、体制の在り方を検討し運営の整備をはかる。

(2) 学芸員の位置づけ

本学の博物館が事業の品質的・量的側面において他大学に対して優位性を保持しているとすれば、それは、教員の兼担ではなく専任の学芸員が配置されていることにより、恒常的に館務を遂行することが可能である点と、高度に専門的な職務を遂行する要員として機能している点が理由である。したがって、こうした博物館のコア・コンピタンスを維持し発展していくためには、学芸員を専門職として制度的に位置付ける必要がある。

4 教育課程・学習成果

本学の学芸員養成課程履修生への実習対応のほか、各学部一般学生に対し、特別講義や半期の講義により博物館に関わる活動および学術成果の普及をはかる。もって、大学博物館の学内的・社会的な意義や役割について理解を深め、博物館のリテラシーを高める。

(1) 教育普及事業

商学部対象の特別講義、各学部生を対象とした共通総合講座を開講する。国際日本学部で開講する文化資料学では、国内の学生にとどまらず、留学生も対象とし、日本の文化資料への理解の深化と海外への発信を促す。

(2) 博物館実習生の受け入れ

学芸員養成課程と連携し、継続して実習生の受け入れと指導を行う。指導内容は各部門で特色を持たせて選択の幅を広げ、実習生のニーズに対応する。

5 学生支援

意欲のある学生ボランティアの博物館活動への参加を促進し、学習や研究、職業経験に資する。

博物館活動をベースに独自の学生ボランティアを企画する。ボランティアセンターと連携して学生を募集し、博物館活動への学生参加の機会を多様に創出する。

6 教育研究等環境

本博物館は、国内有数規模の各種の資史料を保管している。これら収蔵コレクションと関連する調査・研究を継続的に進めるとともに、コレクション・データベースの整備による学術情報公開、修復および保存処理によるコレクションの保全を推進する。また、資史料の購入や寄贈の受け入れにより、収蔵コレクションの充実をはかる。さらに、コレクションを利活用するために必要不可欠なレファレンス体制の整備と収蔵スペースの充実を目指す。

(1) 収蔵コレクションの保管と拡充

収蔵コレクションの調査研究と収蔵データベースの整

備を継続し、学術情報の公開を進める。あわせて、資料の保存処理・修復・良好な保存環境の維持により、コレクションの保全をはかるとともに、展示への利活用を可能とする。また、購入や寄贈資料の積極的な受け入れにより収蔵コレクションを充実する。なお、資史料の購入にあたっては、博物館運営委員会の分科会である資料評価分科会の承認を得る。また、調査・研究に資する博物館図書室の整備を促進する。

(2) 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下1・2階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と利活用に資するべく、200㎡程度の収蔵施設の増設を要望する。

(3) 学内外の教員・研究者による収蔵資料の利用促進

収蔵コレクションを研究対象とし、長期的な研究活動を希望する学内外の教員・研究者が、資料を継続的に利用できる組織的・施設的な体制を整備する。

(4) 展覧会の共同開催

学内外の機関などからの利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなっている。特別展示室の利用を一層周知し、学内団体による利用を活性化させ、共同利用機能の拡充を目指す。

(5) 共同研究・成果発信の体制

学芸員による科研費等の外部資金の獲得を促進する。博物館の専門分野に関連する研究・知財戦略機構付属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットや学部・大学院との連携により、共同研究を推進し、国内外への成果発信の体制を継続的に支援する。

7 社会連携・社会貢献

博物館は、2004年のリニューアル・オープン以降、博物館主催の特別展を毎年度開催している。特別展の準備と開催は、博物館の最重要事業であり、最も重点的に予算を配分する。担当する学芸員は、数年にわたる準備期間をかけて、特別展テーマに関連する調査・研究を実施し、国内外への成果公開に努めている。また、特別展をはじめ、地域連携、館蔵コレクション研究の深化など、博物館活動の根幹をなす調査・研究活動を多角的に推進する。もって、生涯学習の多様な機会の提供、及び地域の関係機関との交流を推進し、本学の教育・研究の成果を社会に還元する。さらに、ICTやSNSの活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する。

(1) 博物館主催特別展の開催

博物館や提携する学内研究機関の調査・研究の成果を社会発信するために企画する特別展は、博物館の中核事業として毎年の重点項目の最上位に位置づけられる。特別展の担当学芸員は、年間エフォートの大半を傾注しており、年間10万人を前後する来館者数の確保に大きく貢献している。会期に並行して、特別展のテーマに応じた公開講座など関連事業を展開する。

(2) 調査研究の推進

収蔵コレクションを対象とした調査・研究を多角的に推進する。各年度の主体的事業となる特別展に関する調査研究を2～3年かけて取り組むほか、内藤家文書など館を代表するコレクションの共同研究や「明大考古学ブランド」を博物館から発信するために、重要文化財を含

む考古コレクションの多視点的アーカイブの構築を行う。

(3) 教育研究成果の社会還元及び情報発信の強化

30年の歴史をもつ公開講座をはじめ、一般社会人のニーズが高い入門講座を継続して展開する。一部の講座は、特別展など展示とのリンクをはかり、研究成果の積極的な社会還元に努める。来館者の動向に直結する情報発信は、従来の学内・駿河台近隣地域・リピーター向けを中心にしたものに加え、インターネット媒体や新聞広告、SNSなど、より広い層をターゲットとする方法を充実させる。

(4) 地域連携・大学間連携事業の推進

4期目となる南山大学人類学博物館との交流事業の実施により、博物館学分野の共同研究のほか、交換展示や交換講座の実施による互恵的な学生教育や学術資料の社会還元を推進する。社会連携プログラムでは、千代田区のほか、原資料所在地等の自治体・機関との連携事業を推進する。

(5) 展覧会の共同開催

学内外の機関などからの利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなっている。特別展示室の利用を一層周知し、学内団体による利用を活性化させ、共同利用機能の拡充を目指す。

(6) 共同研究・成果発信の体制

学芸員による科研費等の外部資金の獲得を促進する。博物館の専門分野に関連する研究・知財戦略機構付属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットや学部・大学院との連携により、共同研究を推進し、国内外への成果発信の体制を継続的に支援する。

(7) 博物館友の会活動への支援

博物館友の会は、市民会員による自律的な運営体制をとっており、博物館は、友の会会員のボランティアによる展覧会や図書室の運営、資料整理等について多大な支援を受けている。友の会は、博物館の対外的な評価の形成に大きく貢献しているため、大学と一般社会との接点として機能している友の会活動を支援することは、博物館にとって重要な意味をもっており、今後も推進していく。

8 大学運営

関係学術分野の専門的知識と技能を有する学芸員は博物館運営の核であり、将来にわたって質的な向上を目指すうえで、職制上専門職として位置づけることが必要である。また、入館者が開館時の1.7倍に達するなど、開館から10年を経て業容が拡大しながら専任職員は逆に減員されている。博物館の充実をはかするためには、事務担当の専任職員の配置が不可欠である。また、過去の購入・寄贈資料等の資産登録時に勘定科目の変更が度々行われたため、管理簿上で混乱が生じていた。近年実施している関係部署と連携した適切な管理体制の維持と、所蔵品点検を行う。

(1) 学芸員の専門職化

博物館運営の中心を担う学芸員について、専門職として制度的に位置づけられるよう要請する。また、今後の受入資史料の専門領域拡大によっては、対処する専門学芸員の増員についても検討する。

(2) 事務組織

2008年以降、現在に至るまで、一般事務職員の配置がないことにより、学芸員の専門的職務の遂行が制約を受

け、博物館事業の品質的・量的低下もやむを得ない状況にある。業務の適正化や今後の博物館事業の展開を見据え、事務担当の専任職員の配置を要求する。

(3) 適切な財産管理手段の構築

資史料の収集は戦前から行われてきたが、度重なる組織改編や所在地移転のため、資産登録に関する勘定科目についてもたびたび変更が行われ、煩雑化した。関係部署と連携して新収蔵資料に対しては適切な勘定科目に基づく資産登録を行うとともに、適宜所蔵品点検を実施して管理体制を充実させる。

9 情報のデジタル発信及び国際化

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源であり、その活用は国際的な広がりも期待される。これら多様な資料の全体像と詳細な学術情報を国内外に発信するため、ICTミュージアムの構築と公開、紙媒体のガイド類・ホームページの外国語化とあわせ、SNS等によるデジタル情報の発信をさらに強化する。また、海外での調査や研究成果発信、海外の研究者に対するレファレンス体制の整備を進め、国際的な学術交流を推進する。

(1) ICTミュージアムの増強

2017年度までに構築したICTミュージアムのコンテン

ツを増強する。3部門共通のコレクション・データベースを充実し、重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブを国際発信する。

(2) 情報発信の充実

海外からの留学生および旅行者を念頭に、展示ガイドブック、リーフレット等の紙媒体やホームページの外国語化の充実をはかる。あわせて、SNSを活用した情報発信を強化する。

(3) 国際学術交流の推進

国際学術交流の近年の実績としては、旧石器時代研究に関わる韓国の石壮里博物館での重要文化財の展示会、明治期の古墳研究資料として著名なガウランド寄託資料に関わる大英博物館での調査および同館所蔵品を用いた特別展の開催などを挙げることができる。また、ハンガリー国立博物館との研究交流事業への参画も予定している。東アジア諸国や西欧諸国の博物館との国際交流の機会を増やし、学術交流を推進する。

(4) 海外からの研究者受入体制の整備

国際学術交流を推進するには、資料情報の発信とともに、国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。海外研究者の受入を視野にレファレンス体制を整備する。

7 2019年度単年度計画重点項目一覧

重点項目 (計画内容・理由等)	詳細内容 (成果・効果・達成目標・検証方法等)	備考
特別展「不可能立体錯視を解き明かす」(仮)の開催	本学の対外的なブランドイメージ構築に向けての全学的な取り組みとして推進すべき課題である私立大学研究ブランディング事業「数理学する明治大学」の研究成果を、学内共同利用機関である博物館の特別展示室から社会に発信する。具体的には錯視現象の解明に関わる研究成果を取り上げ、現象数理学の具体的な様相と研究プロセスを提示し、①大学における研究活動が社会における課題解決に資する意義を広く周知し、②研究に取り組み、深めることの魅力を在学生や受験生世代をはじめとする若年層にアピールする。	
重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブと国際発信	2019年度は4ヵ年計画の2ヵ年目として重要文化財(旧石器)のアーカイブ成果を公開する(web及び刊行物)。明大考古学の発足から蓄積された重要文化財を含む遺物・発掘記録を活用する。デジタル化、理化学的な方法などによる多視点的かつ現在の研究視点からコレクションの学術評価を行う。これら各種情報をアーカイブ記録として一体化し、研究報告の刊行及び2017年度までに構築したICTミュージアムのプラットフォームを通じて国内外へ発信を行うことで、博物館から明大考古ブランドを発信する。	
明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業(第4期)	博物館学の教育・研究活性化と本学における教育・研究の名古屋方面へのアピールとして交流事業(2010年度より実施)の第4期(2019~2021年度)を実施する。①双方の特色ある収蔵資料を交換した展示に基づく主に学芸員資格課程履修生を対象とする特別講義の実施、②両館の収蔵資料体系をテーマとする一般向け公開講座の合同開催、③博物館関係者を主な対象とする研究会・研修会・シンポジウム等の開催による実務スキルアップの機会提供(東京もしくは名古屋を会場とする)及びブックレット発行による成果拡張、を事業の柱とする。	
伝統的工芸品産業(信楽焼・滋賀県)のマーケティング研究	商学部教員等に研究調査員を委嘱して組織している商品部門研究推進部会の活性化を図り、展示をはじめとする教育活動のリソースを充実させる。工業製品のブランドイメージ向上のため、歴史的な製法による伝統的工芸品のイメージがどのようにマーケティング活動に活用されているか、2019年度から3ヵ年計画で滋賀県の信楽焼を対象とし、製造・流通の関係者を交えて検証した成果を公開特別講義(商学部生・他学部生・一般社会人への公開)及び調査報告書において公開する。	

8 明治大学博物館のあゆみ

- 1881 (明治14) 年 1月 明治法律学校開校
- × ×
- 1929 (昭和 4) 年 4月 刑事博物館を記念館 5階に開設
- 1931 (昭和 6) 年 大学創立50周年記念刑事展覧会開催
- 1933 (昭和 8) 年 刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任
- 9月 『刑事博物図録』を刊行
- (第 2 次 世 界 大 戦)
- 1949 (昭和24) 年 新制大学へ移行
- 1951 (昭和26) 年 4月 刑事博物館の運営を再開 2代館長に島田正郎法学部教授 (後、明治大学総長)
林久吉商学部教授 (初代商品陳列館長) らの商品研究所が資料室を開設
- 1952 (昭和27) 年 考古学陳列館が 2号館 4階に開館 (初代館長後藤守一文学部教授)
- 1954 (昭和29) 年 4月 刑事博物館が 2号館 4階へ移転 6月に一般公開開始
- 1955 (昭和30) 年 2月 刑事博物館が博物館相当施設に指定される (2004年3月廃館にともない指定解除)
- 1957 (昭和32) 年 5月 商品陳列館が 2号館 4階に開館
(この頃には3館とも一般公開 3館共通の入館案内を作成)
- 1960 (昭和35) 年 考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授就任
- 1966 (昭和41) 年 4月 小川町校舎に移転(考古 2階・刑事 3階・商品 4階)
商品陳列館長に三谷茂商学部教授就任
- (大 学 紛 争)
- 1976 (昭和51) 年 4月 刑事博物館長に鍋田一法学部教授就任
- 1977 (昭和52) 年 4月 商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催 (年1回～2003年)
- 1981 (昭和56) 年 1号館 (刑事 1階・考古 3階)、11号館 (商品 4階) へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部
教授就任
- 1983 (昭和58) 年 9月 考古学陳列館長に大塚初重文学部教授就任
- 1985 (昭和60) 年 11月 3館大会館へ移転 (刑事・商品 3階・考古 4階)
「考古学博物館」に名称変更
- 1987 (昭和62) 年 5月 公開講座「考古学ゼミナール」開講
- 1988 (昭和63) 年 6月 考古学博物館友の会結成
- 1991 (平成 3) 年 4月 3博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
- 10月 「明治大学博物館規程」制定
- 1995 (平成 7) 年 4月 考古学博物館長に戸沢充則文学部教授就任 刑事博物館長に川端博法学部教授就任
- 10月 博物館入門講座を開講
- 1996 (平成 8) 年 4月 考古学博物館長に小林三郎文学部教授就任
- 1997 (平成 9) 年 4月 刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催 (～12月)
- 2001 (平成13) 年 4月 刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
- 2002 (平成14) 年 4月 商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授就任
- 2004 (平成16) 年 4月 「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館
「明治大学博物館規程」改正施行 (刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合)
国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催 (～5月)
博物館長に小疇尚文学部教授就任
- 10月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託 (～2005年3月)
- 2006 (平成18) 年 4月 博物館長に杉原重夫文学部教授就任
- 8月 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託 (～2007年3月)
- 10月 特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
- 11月 明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる (～2010年3月)

2007（平成19）年	10月	事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
2009（平成21）年	4月	事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる 巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」開催 中国国家一級文物を展示（～5月）
2010（平成22）年	3月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
2012（平成24）年	4月	博物館長に風間信隆商学部教授就任
2013（平成25）年	2月	ギロチンとニュルンベルグの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との 合同特別展「驚きの博物館コレクション展」（～3月）
	3月	南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いと コレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行
	7月	岩宿遺跡出土石器（重文・29点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9月） 韓国公州市石壮里 博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展を開催（～2014年2月）
2014（平成26）年	5月	開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」を開催 （～6月）
	7月	大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介 した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催（～8月）
2016（平成28）年	3月	常設展示を改修、新装オープン 東京都教育庁から博物館相当施設に指定される
	4月	博物館長に村上一博法学部教授が就任
2017（平成29）年	4月	明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組
2018（平成30）年	3月	年度の入館・利用者数が初めて10万人を超える
	4月	博物館長に井上崇通商学部教授が就任
	8月	2004年の開館以来の入館・利用者数が100万人を超える
	10月	大英博物館から資料を借用しての特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」開催（～12月）
2019（令和1）年	9月	特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」が入場者2万人を超える
2020（令和2）年	2月	年度の入館・利用者数が初めて11万人を超える
	3月	Covid2019（新型コロナウイルス感染症）拡大防止のため臨時休館

明治大学博物館年報 2019年度

2020年7月17日 発行

編集 明治大学学術・社会連携部博物館事務室
発行人

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448

FAX 03-3296-4365

URL <https://www.meiji.ac.jp/museum/>

印刷 株式会社サンヨー

東京都千代田区神田神保町1-30

